



ランチ セッション



PEPNet-Japan

聴覚障害学生支援に関する
実践事例コンテスト2010



5階 展示スペースにて

12:00～14:00（担当者説明時間 12:30～13:45）

本シンポジウムでは、全国の大学が日頃実践している支援の取り組みを発表し、参加者の投票によって優れた取り組みを表彰するコンテスト企画を設けております。会場には、教職員・学生・支援者など14団体の応募者が力を入れて作成したポスター17点が並んでいます。また、PR・啓発グッズ部門には5団体からの応募があり、マニュアルなどを展示しております。

ぜひ、内容をご覧ください、「この取り組みは参考になる！」と思った発表に投票してください。

投票方法

★みなさんの名札の中に投票用紙（2枚）が入っています。会場でポスターをご覧ください、これは良い！と思った発表2つに投票して下さい。投票箱は各ポスターの前に設置しています。

★本コンテストでは、組織の大きさや完成度ではなく、次のような観点から投票をお願いします。

- ・こんな取り組みを実現したかった！
- ・ぜひ真似したいアイデアだ！
- ・今後の発展が楽しい内容だ！
- ・日頃の努力が伝わってくる！



★発表いただいた各団体には、以下の賞を用意しています。

- ・ PEPNet-Japan 賞
- ・ 準 PEPNet-Japan 賞
- ・ アイディア賞
- ・ Good プレゼンテーション賞
- ・ PR・啓発グッズ部門賞
- ・ 奨励賞



参考になる
取り組みに
投票

投票箱

投票用紙は1人2枚
名札の中に
入っています



※会場内の手話通訳者は
青色の腕章を付けています。

参加団体

FKCfriends／愛媛大学バリアフリー推進室／愛知教育大学／京都精華大学障がい学生支援室／同志社大学学生支援センター障がい学生支援室／フェリス女学院大学／日本社会事業大学障がい学生支援組織 CSSO／千葉大学ノートテイク会／日本工業大学／筑波大学障害学生支援室聴覚障害学生支援チーム／群馬大学／宮城教育大学しょうがい学生支援室聴覚しょうがい部会学生運営スタッフ／東北福祉大学障がい学生サポートチームテイク☆テイク／岩手大学人文社会科学部人間科学課程／遠山正朗・小林充明・照木篤子



聴覚障害学生支援に関する機器展示

5階 展示スペースにて 12:00~14:00

FM補聴システム



マイクに入った音が
直接補聴器に届け
られる。

FM補聴システムは、マイクと受信機のセットでシステムとなっています。ちょうどラジオ局とラジオ受信機のように、話し手がFMマイク(ラジオ局)を持ち、声を電波に乗せて流します。これを、聴覚障害学生が装着している小型の受信機(ラジオ受信機)で受け、鮮明な音声で聞き取る仕組みになっています。

FM補聴システムの一例



PHONAK社製のFM送受信機で、補聴援助システム用に割り当てられた周波数帯域に対応している。マイクの指向性が変えられるため、聞きたい音を選択的にひろえる点が特徴的。

- ・FM送信機インスパイロiBoom
- ・FM受信機MyLink

参考ホームページ: <http://www.phonak.jp/products/images/fmsystem/tsukuba.pdf>

筑波技術大学 障害者高等教育研究支援センター教授 佐藤正幸

(お問い合わせはPEPNet-Japan事務局まで)

携帯電話を活用した『モバイル型遠隔情報保障システム』



『モバイル型遠隔情報保障システム』は、携帯電話を通じて話者の音声や遠隔地にいる要約筆記者に送信し、そこで作成された字幕データを携帯電話で受信できるシステムです。教室や体育館などLAN環境のない場所や、パソコンを持ち込むことが難しい環境下でも要約筆記を利用できるようになります。

講師の声を情報保障者に伝えること、そして作成された文字情報を表示することの2つの役割を、1台の携帯電話 (iPhone 3G) で担っていることが一つのポイントです。

また、パソコン要約筆記のみならず、音声認識技術との連携も可能です。

※筑波技術大学、群馬大学、東京大学の研究グループは、ソフトバンクモバイル株式会社およびNPO法人 長野サマライズ・センター、MOC Hubnetと共同で本取り組みの導入実験プロジェクトを進めています。

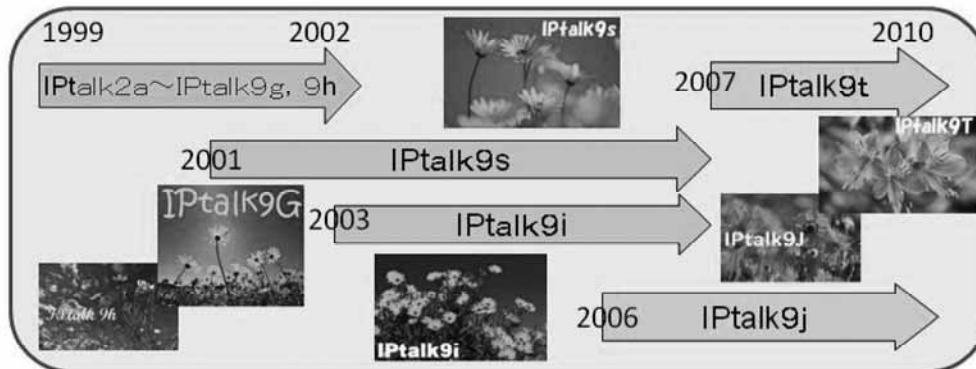
参考ホームページ: <http://www.tsukuba-tech.ac.jp/ce/mobile1/index.html>

筑波技術大学 障害者高等教育研究支援センター准教授 三好茂樹

(お問い合わせはPEPNet-Japan事務局まで)

日本遠隔コミュニケーション支援協会（略称NCK）

★1999年から、全国の利用者・入力者の要望でIPtalkを開発しています。



IPtalk に関する質問や要望があれば気軽に相談してください。

★NCK は、在宅入力者の普及活動などを行っている団体です。

特定非営利活動法人(NPO法人)
日本遠隔コミュニケーション支援協会(略称NCK)

- ・2008年7月15日設立(内閣府に届出)
- ・理事長 栗田茂明
- ・会員数 65名+2団体 (2010年8月)
- ・活動資金は、会員、寄付、有償のパソコン文字通訳(学校、団体など)

目的 定款より抜粋

第3条 この法人は、聴覚障害者に対して、IT機器やIT技術を活用したコミュニケーション支援の実施、手段に関する研究、普及の活動などに関する事業を行い、聴覚障害者福祉の増進に寄与することを目的とする。

**NCKの遠隔パソコン文字通訳は
自宅での情報保障をする方法**

入力者不足の解消
パソコン文字通訳の入力者は機能的に不足しています。この問題を解決するために、NCKは、移動が困難な子育て中の主婦や下級障害者の方たちが在宅でパソコン文字通訳ができる遠隔入力の方法の開発や普及の活動を行っています。



こんな活動をしています

- ① 大会・会議などの遠隔パソコン文字通訳
在宅入力者による、会場ではスタッフが1名しかいません。(A方式)
- ② 大会・会議などの遠隔パソコン文字通訳
在宅入力者による、会場ではスタッフが1名しかいません。(B方式)
- ③ 遠隔入力者の育成
遠隔入力者による、会場ではスタッフが1名しかいません。(C方式)
- ④ インタビューの開催
遠隔入力者による、会場ではスタッフが1名しかいません。(D方式)

NCK では、在宅入力者(謝金あり)を募集しています。

問い合わせ先

NPO 法人 日本遠隔コミュニケーション支援協会（略称NCK）

栗田 茂明

E-Mail: shigeaki_kurita@ybb.ne.jp

http://iptalk.web.infoseek.co.jp/nck/nck.htm



全体会



【特別企画】

特別企画

「徹底解剖！ PEPNet-Japan ―あなたのギモンに答えます―」

司会： 菅井裕行氏（宮城教育大学 特別支援教育講座）
及川麻衣子氏（宮城教育大学 しょうがい学生支援室）

回答者： 高橋信雄氏
（愛媛大学 教育学部（PEPNet-Japan 運営委員長））
金澤貴之氏
（群馬大学 教育学部（PEPNet-Japan 運営委員））
吉川あゆみ氏
（関東聴覚障害学生サポートセンター（PEPNet-Japan 情報保障評価事業代表））
白澤麻弓氏
（筑波技術大学障害者高等教育研究支援センター（PEPNet-Japan 事務局長））

【企画趣旨】

日本聴覚障害学生高等教育支援シンポジウムも、今年で6回目の開催となりました。2005 年の第 1 回シンポジウム以来、年を重ねる毎に参加者が増えてくるとともに、日々の活動を通して PEPNet-Japan のことを多くの方に知って頂けるようになりました。

ただ、これまで PEPNet-Japan で作成したマテリアルや研修内容について紹介することはあっても、組織・活動のことをご紹介する機会はありませんでした。改めて PEPNet-Japan のことや今後の活動について知っていただきたく、本企画を開催することとなりました。

併せて PEPNet-Japan によく寄せられるギモンや、支援に関する悩みなどについて、聴覚障害の専門家からアドバイスして頂きます。これを機会に、参加者の皆さんにもっと PEPNet-Japan を活用して頂けるよう願っています。



PEPNet
-Japan

**徹底解剖！PEPNet-Japan
～あなたのギモンに答えます～**

PEPNet
-Japan

PEPNet-Japanの概要

PEPNet-Japanって？

PEPNet
-Japan

PEPNet-Japanの概要

活動内容について

PEPNet
-Japan

PEPNet-Japanの組織

連携大学・機関について

PEPNet
-Japan

PEPNet-Japanの組織

運営について

PEPNet
-Japan

PEPNet-Japanの組織

運営のための経費について

よくある質問

**日本学生支援機構（JASSO）
との違いを教えてください。**

よくある質問

**教職員のための活動が
中心ですか？**

よくある質問

**手話通訳などの支援者も
派遣してくれますか？**

支援に関する質問

今後に向けて



【特別対談】

特別対談「宮城教育大学学長と語る-大学教育と障害学生支援-」

ゲスト: 高橋孝助氏(国立大学法人宮城教育大学 学長)

藤島省太氏(国立大学法人宮城教育大学 特別支援教育講座 教授)

司会: 中野聡子氏

(国立大学法人東京大学 先端科学技術研究センター人間情報工学分野)

【企画趣旨】

宮城教育大学では、「特別支援教育マインドを持った学生を育てる」というポリシーを掲げ、学長のリーダーシップのもとに、障害学生支援にも積極的に取り組んでおられます。

本対談では、宮城教育大学での障害学生支援体制構築にご尽力されてきた高橋学長と藤島先生をゲストとしてお招きし、大学としての障害学生支援ポリシーや、学生教育の中の障害学生支援の位置づけ、教員養成大学で障害学生支援に取り組む意義などについて、深くお話をうかがいます。

【プロフィール紹介】

国立大学法人宮城教育大学

学長 高橋孝助氏

昭和18年、秋田県生まれ。昭和50年3月、東京大学大学院人文科学研究科東洋史学専門課程(博士課程)単位取得満期退学。同年6月宮城教育大学助教授。以後、宮城教育大学教授、総務担当理事(副学長)を経て平成18年8月より国立大学法人宮城教育大学学長。専門は東洋史(中国近現代史)。



国立大学法人宮城教育大学 特別支援教育講座

教授 藤島省太氏

昭和30(1955)年山形県生まれ。昭和54(1979)年、東北大学教育学部教育心理学科卒業。昭和58(1983)年7月、東北大学大学院教育学研究科博士後期課程退学、同年8月より国立特殊(現独立行政法人国立特別支援)教育総合研究所・聴覚言語障害教育研究部・言語機能障害教育研究室研究員、平成3(1991)年より宮城教育大学教育学部・障害児(現特別支援)教育講座助教授、平成17(2005)年より現職。専門は、聴覚・言語障害心理学。種々の障害況における教育的係わり合いに関する実践研究。



MEMO

PEPNet Japan

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....



参考資料



日本聴覚障害学生高等教育支援ネットワーク PEPNet-Japan

日本聴覚障害学生高等教育支援ネットワーク※(以下 PEPNet-Japan; The Postsecondary Education Programs Network of Japan) は、2004年10月筑波技術大学の呼びかけにより結成された高等教育機関間のネットワークで、これまでに聴覚障害学生を受け入れ、積極的に支援を行ってきた連携大学・機関によって組織されています。設立時には日本財団の助成による PEN-International (聴覚障害者のための国際大学連合) の支援を受け発足しました。現在は、筑波技術大学障害者高等教育研究支援センターに事務局が置かれ、文部科学省特別教育研究経費による拠点形成プロジェクトの一環として事業を展開しています。

本事業の目的は、全国の聴覚障害学生が在籍する大学および関係諸機関間のネットワークを形成し、高等教育機関で学ぶ聴覚障害学生に対する支援体制の確立をはかることで、情報や実践の蓄積と、他大学・機関への発信の2つを目指して活動を行っています。



連携大学・機関

こんな活動をしています。

各種研修会の開催



情報交換会の開催



教材作成・配布



Web による情報発信



メーリングリスト運営

諸外国の視察調査



運営委員会の開催



これまでの活動成果

はじめての聴覚障害学生支援講座

Webコンテンツ

はじめて聴覚障害学生を受け入れることになったとき、大学側はいったいどんな準備をすればいいのでしょうか？

ここでは、学内で支援体制を作り上げていくための手順を一から丁寧に解説しています。

はじめての 聴覚障害学生支援講座

月 日 ()

【まず知ってほしい基礎知識】

1. 聴覚障害
2. コミュニケーション
3. 聴覚障害学生の大学生活

【情報保障の方法】

1. 手書きによるノートテイク
2. パソコンによるノートテイク
3. 手話通訳

【聴覚障害学生支援の流れ】

1. 本人との面談
2. 支援のための準備
3. 授業における支援
年間業務の例
4. 支援体制の構築

【事例1】早稲田大学の例

【事例2】東京大学の例 など

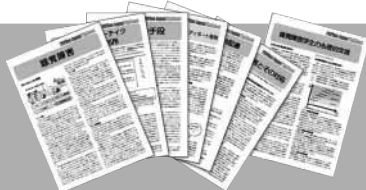


トピック別聴覚障害学生支援ガイド —PEPNet-Japan TipSheet 集



「聞こえないってどういうこと?」「ノートテイクって何?」

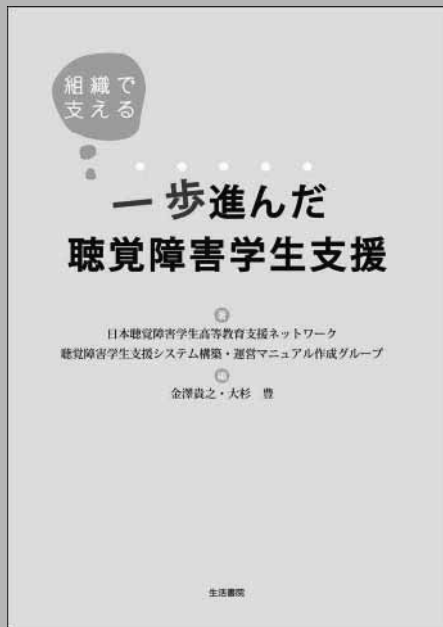
聴覚障害学生支援を実施するためには、意外といろいろな知識が必要となるものです。PEPNet-Japan では、このような基本知識をトピックごとにまとめ、簡単に参照できるリーフレットを作成し、新たに現在までのトピックをまとめた冊子版を発行しました。冊子版・リーフレットともにご自由に配布していただけるよう Web 上で公開していますので、ダウンロードの上ご活用下さい。



1. 高等教育における聴覚障害学生支援
2. 聴覚障害学生支援の全国的状況
3. 聴覚障害
4. 聴覚障害幼児・児童・生徒を囲む教育環境
5. 聴覚障害教育におけるコミュニケーション方法
6. 情報保障の手段
7. 文字による支援方法
8. 手書きのノートテイク その特徴と活用
9. パソコンノートテイク その特徴と活用
10. 高等教育における手話通訳
11. 手話通訳による支援
12. 通訳者の健康障害とその対応
13. 補聴援助システム
14. 聴覚障害支援におけるコーディネート業務
15. 入学当初のサポート
16. 学期初めのコーディネート業務
17. 聴覚障害学生支援の財源
18. 聴覚障害学生の心理的支援
19. 授業における教育的配慮
20. 音声認識技術による情報保障
21. 支援体制の組織化のプロセス

一歩進んだ聴覚障害学生支援 ―組織で支える―

一般書店でご注文下さい。



初めて聴覚障害学生が入学することになった時の対応方法から、入学試験や事前面談の進め方、支援に携わる人材の確保、さらには支援体制の強化まで、具体的な事例やノウハウを盛り込んでまとめたマニュアルブックです。

- 第1章 集団大学の意思決定システムとつきあう
- 第2章 入学前の対応で支援体制づくりを始める
- 第3章 必要な予算とその財源を把握する
- 第4章 支援に関わる人材を確保し適切に配置する
- 第5章 啓発活動で支援体制の可能性を広げる
- 第6章 組織と規程で支援体制の基盤を固める

発行所 株式会社生活書院

DVD シリーズ「聴覚障害学生支援」

本 DVD シリーズは、大学等の高等教育機関で学ぶすべての聴覚障害学生がバリアを感じることなく、いきいきと大学生活を送ることを願って作成しています。聴覚障害学生にはどのような支援が必要か、聴覚障害学生を受け入れた大学はどのような準備を始めればいいのか、なぜ支援が必要なのかを映像を通して分かりやすく解説しています。

Access! 聴覚障害学生支援① 「学び」を支える大学づくり



初めて聴覚障害学生を受け入れる大学の教職員の方のために、支援の実際と支援体制の立ち上げの基本的な部分をわかりやすく解説しています。大学関係者のみならず、聴覚障害学生支援に関わるすべての方々にご活用いただける1枚です。

New!

Access! 聴覚障害学生支援② 小さな「気づき」で変わる授業・変わる大学



大学の教員を対象として、どのような点に注意をすれば聴覚障害学生に伝わる授業になるのかを解説するとともに、支援の教育的位置づけや支援による教育効果にも触れています。FD 教材としてもご活用下さい。

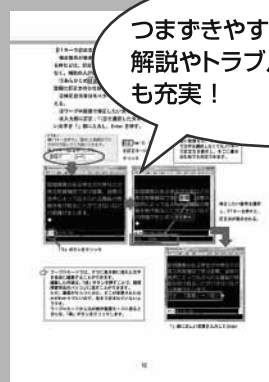
やってみよう! パソコンノートテイク

パソコンノートテイク導入支援ガイド



やってみたいけど難しそう・・・そんなパソコンノートテイクに対するイメージを払拭します! 支援を始めるために必要な機器からパソコン同士の接続・設定、入力の基礎までとにかくわかりやすく解説しています。

受講生用テキストとしてご利用頂きたい簡易版も発行しました。



大学ノートテイク支援ハンドブック

一般書店でご注文下さい。

ーノートテイクの養成方法から制度の運営までー



「ノートテイクを養成したいけれど何をどうすれば?」そんな声にお応えするため、養成講座開催の流れから支援者のスキルアップまで、支援の極意を丁寧に解説しています。

第1章 ノートテイク養成の必要性和その準備

第2章 ノートテイク養成講座のカリキュラム

第1講 聴覚障害学生への理解と情報保障について

第2講 ノートテイクの基本的な書き方

第3講 練習 ステップ①・②

第4講 授業に応じた書き方の工夫

第5講 ルールとマナー

第6講 模擬授業による応用練習

第3章 ノートテイク養成後の対応

発行所 株式会社人間社

アメリカ視察報告書

総集編



聴覚障害学生への支援体制を構築していくためには、将来めざすべき姿を見据えておくことも重要です。

これまで PEPNet-Japan が実施してきた第1回～第3回のアメリカ視察調査の結果を1冊にまとめた総集編と、個別のトピックに焦点をあてた4回分の視察報告書特別編を作成しました。

最先端の支援事情を知りたい方はぜひご一読下さい。

特別編



「先端情報保障技術」

「手話通訳者養成」

「手話通訳者養成Ⅱ」

その他、ホームページをご覧ください。

聴覚障害学生の支援に役立つコンテンツを多数公開しています。ご興味のある方はホームページをご覧ください。



各種研修会資料



これまでに開催した研修会資料はすべてWebにて公開しています。

啓発DVD「Being Deaf」



大学訪問レポート



WWW.PEPNet-J.org

これまでの活動

日本聴覚障害学生高等教育支援シンポジウム

PEPNet-Japan の活動成果をより多くの大学・機関に発信するとともに、全国の支援実践について情報交換をすることを目的に、毎年1回開催しています。また、第4回からは、日頃実践している取り組みをポスター形式で発表し、情報交換を行うとともに関係者の創意工夫やアイデアの斬新さを表彰するコンテスト企画を設けています。

- ・第1回 於：筑波技術大学天久保キャンパス（2005年10月8日）
- ・第2回 於：日本福祉大学名古屋キャンパス（2006年11月18日）
- ・第3回 於：筑波技術大学天久保キャンパス（2007年10月20日）
- ・第4回 於：キャンパスプラザ京都（2008年10月26日）
- ・第5回 於：学術総合センター（東京都）（2009年11月3日）



研修会・セミナー

支援技術に関する研修会や教職員を対象としたセミナーなどを開催しています。

- ・ノートテイク指導者養成講座（2006年9月24日）
- ・聴覚障害学生支援技術講習会（2010年1月30日） など



諸外国視察

各国で行われている聴覚障害学生支援の状況を学ぶために、アメリカをはじめとした諸外国への視察を行っています。また、その様子を報告書としてまとめたり、報告会を開いたりして、得られた知識・情報の発信にも努めています。



メーリングリストの開設

聴覚障害学生支援に関わる方々同士が様々な情報を共有し、よりよい支援体制を求めて議論していくことを目的として、メーリングリストを立ち上げています。



運営組織

代 表

村上 芳則 筑波技術大学・学長

運営委員

- | | |
|--------|-----------------------------|
| ○高橋 信雄 | 愛媛大学教育学部・教授 |
| 新國三千代 | 札幌学院大学バリアフリー委員会(人文学部)・教授 |
| 松崎 丈 | 宮城教育大学教育学部・准教授 |
| 高橋 明美 | みやぎ DSC・スタッフ |
| 及川 力 | 筑波技術大学障害者高等教育研究支援センター・センター長 |
| 石原 保志 | 筑波技術大学障害者高等教育研究支援センター・教授 |
| 白澤 麻弓 | 筑波技術大学障害者高等教育研究支援センター・准教授 |
| 倉谷 慶子 | 関東聴覚障害学生サポートセンター・コーディネーター |
| 廣瀬 洋子 | 放送大学 ICT 活用・遠隔教育センター・教授 |
| 金澤 貴之 | 群馬大学教育学部・准教授 |
| 杉田與志子 | 静岡福祉大学健康福祉学科・講師 |
| 岩田 吉生 | 愛知教育大学教育学部・准教授 |
| 藤井 克美 | 日本福祉大学社会福祉学部・教授 |
| 眞銅 正宏 | 同志社大学学生支援センター・所長 |
| 青野 透 | 金沢大学大学教育開発・支援センター・教授 |
| 林田 真志 | 広島大学大学院教育学研究科・講師 |
| 太田 富雄 | 福岡教育大学附属特別支援教育センター・教授 |

(○は運営委員長)

事務局員

- | | |
|--------|---------------------------|
| ○白澤 麻弓 | 筑波技術大学障害者高等教育研究支援センター・准教授 |
| 中嶋 靖雄 | 筑波技術大学聴覚障害系支援課・課長 |
| 小林 正幸 | 筑波技術大学障害者高等教育研究支援センター・教授 |
| 長南 浩人 | 筑波技術大学障害者高等教育研究支援センター・准教授 |
| 三好 茂樹 | 筑波技術大学障害者高等教育研究支援センター・准教授 |
| 河野 純大 | 筑波技術大学産業技術学部産業情報学科・准教授 |

(○は事務局長)

(2010 年 4 月 1 日現在)



第 1 回関係者会議



アメリカ視察報告会



シンポジウムの開催



第 1 回アメリカ視察

日本聴覚障害学生高等教育支援ネットワーク (PEPNet-Japan) 事務局

〒305-8520 茨城県つくば市天久保 4-3-15

筑波技術大学 障害者高等教育研究支援センター

URL <http://www.pepnet-j.org> TEL/FAX 029-858-9438 E-mail pepj-info@pepnet-j.org

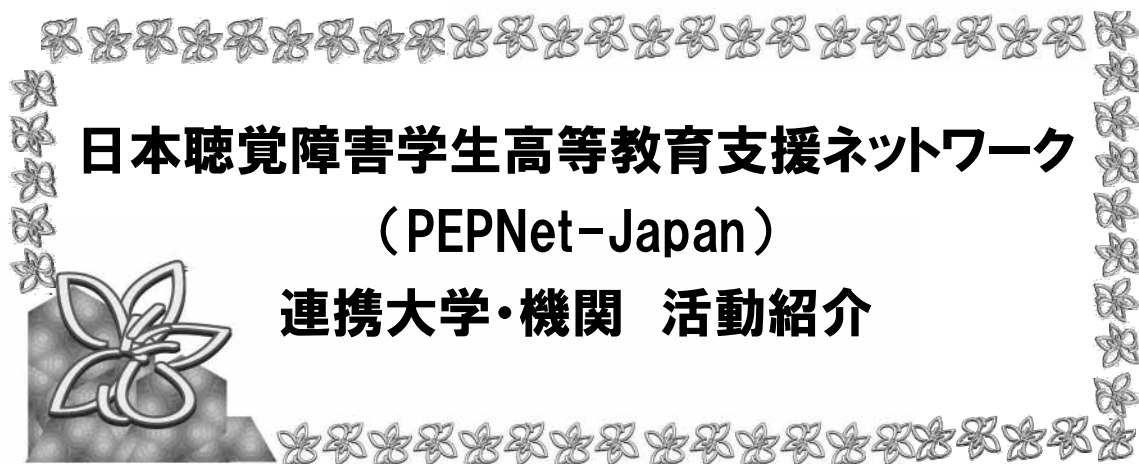
担当：白澤麻弓（筑波技術大学障害者高等教育研究支援センター准教授）

※本事業は、文部科学省特別教育研究経費による拠点形成プロジェクト（筑波技術大学）の活動の一部です。



国立大学法人

筑波技術大学



- 札幌学院大学
- 宮城教育大学
- みやぎ DSC
- 東京大学
- 関東聴覚障害学生サポートセンター
- 群馬大学
- 静岡福祉大学
- 愛知教育大学
- 日本福祉大学
- 同志社大学
- 立命館大学
- 関西学院大学
- 金沢大学大学教育開発・支援センター
- 広島大学
- 愛媛大学
- 福岡教育大学
- 筑波技術大学



(2010 年 8 月 1 日現在)

連携大学・機関

札幌学院大学

●支援組織名称 札幌学院大学バリアフリー委員会
http://www.sgu.ac.jp/bfc/

●スタッフ 教職員 14 名、学生スタッフ 114 名

聴覚障害学生	8 名	学部生	8 名
		院生	0 名
視覚障害学生	1 名		
肢体障害学生	8 名		

設置形態	私立大学
学生数	4, 250 人
所在地	〒069-8555 北海道江別市文京台 1 1 番地

学内支援体制

2001 年教職員および学生によりバリアフリー委員会発足。2002 年度から障がい学生支援に関わる諸経費を大学予算で対応。現在、全学的組織である「障がい学生支援連絡会議」の下にバリアフリー委員会が置かれている。

ノートテイク・パソコン要約筆記

提供しているサービス	ノートテイク、パソコン要約筆記 (IPtalk 使用)、手話通訳 (補助的)		
利用者数	8 名	学部生	8 名
		院生	0 名
ノートテイク数	10 年度：前期 38 名 (ノート 16 名、PC 18 名、ノートと PC 4 名)、手話 4		
サービス提供時間数	10 年度前期→76 科目 (NT 33 科目、PC 37 科目、手話 3 科目) ×15 回 (09 年度前・後期合わせて 120 科目)		
報酬および経費	770 円/時間		
募集方法	掲示板、HP に募集ポスターを掲示、情報ポータルで募集のお知らせ、新年度のガイダンス時にバリアフリー委員会の学生達が手分けして全学部学科に募集説明、活動説明会の開催		
コーディネート方法	バリアフリー委員会テイク統括部が行う。		
養成方法	年間を通して毎週 1 回程度テイク講習会を実施。新学期 2 ヶ月間は、毎週数回実施。先輩学生が講師を務める。先輩学生や被テイク者も助言者として参加する。		
本学ノートテイク・パソコン要約筆記の特徴	先輩学生が後輩学生を育てながら相互に育ち合っている。		

手話通訳

利用者数	3 名	学部生	3 名
		院生	0 名
手話通訳者数	4 名		
サービス提供時間数	5 科目 ×15 回、テイクと併用		
報酬および経費	770 円/時間		
募集方法	手話通訳のみの募集はしていない。		
コーディネート方法	バリアフリー委員会テイク統括部が聴覚障がい学生の希望を聞いて、配置する。これまではゼミや演習/実習科目で要望があった。		
養成方法	手話学習会を毎週 1 回実施。		
本学手話通訳の特徴	テイクの補助手段およびテイク者と被テイク者とのコミュニケーション手段として使用。		

Check!

学生・教職員の協働により委員会を運営している。障がいを抱える学生と支援学生が主体的に企画・運営を担う。

みんなでしゃべり場

札幌学院大学バリアフリー委員会では、講義保障のスキルを高めるテイク講習会・手話勉強会の他に、障がい学生支援について様々な角度から学ぶ取り組みも学生が中心になって行っています。学外から講師を招いて開催する各種講演会がそうですが、地味ながらももう一つ学生たち自身の力を養っているのが、18:30 から定期的に開催している「みんなでしゃべり場」というディス



カッションの場です。例えば、「聴覚障がい者が困ること、その時私達にできること、設備などの改善」など、授業保障以外のことについても、自分たちの視点で学び合っています。

サービス向上を目指して

ノートとパソコン要約筆記のテイク養成講座を先輩が講師となって実施している。数名の先輩や被テイク者達も補助者として参加し、後輩のテイクの内容を個別にチェックしたり、助言している。また、先輩達が作成したテキストを引き継いで改訂しながら継続的にテイク養成の向上を図っている。これらはすべてボランティアである。今後の課題は、テイクの講師や補助者を育てるプログラムを充実させること、講座運営に携わる学生達への相応の待遇を検討することである。

参考資料

札幌学院大学バリアフリー委員会のホームページ
(http://www.sgu.ac.jp/bfc/) に活動内容を掲載。

問い合わせ先 大学：教務課 教務事務部長
電話 011-386-8111/FAX011-386-8111
学生組織：sgu_bfc@sgu.ac.jp

宮城教育大学

●支援組織名称 宮城教育大学 しょうがい学生支援室

●スタッフ 教職員14名、学生スタッフ92名

聴覚しょうがい学生	7名	学部生	7名
		院生	0名
視覚しょうがい学生	2名		
肢体しょうがい学生	2名		
病弱しょうがい学生	6名		

設置形態	国立大学法人宮城教育大学
学生数	1690人(学部生1554人、院生136人)
所在地	〒980-0845 宮城県仙台市青葉区荒巻字青葉149番地

学内支援組織図

支援室	専門部会
室長 1名 (学務担当副学長)	聴覚しょうがい部会 視覚しょうがい部会
室員 8名 (専門部会長、指名教員等)	発達しょうがい部会 肢体不自由部会
職員(コーディネーター) (必要に応じて配置：現在は5名)	

ノートテイク・パソコンノートテイク・音声認識通訳

利用者数	5名	支援者数	92名(NT92名/PC30名/音声認識30名)
サービス提供時間数	1190コマ(2009年度)	報酬および経費	900円/時間(教育実習のみ)
募集方法	掲示板に募集ポスターを掲示、募集用リーフレット配布、学内行事におけるPR映像の放映、新入生への広報(入学時資料に募集リーフレットを同封、入学式の式典前に文字通訳のスクリーンを利用してPR映像を放映)		
コーディネート方法	コーディネーター4名(教務補佐員)が連絡調整する。聴覚しょうがい学生及び学生ノートテイクの助言・指導を担当する経験の長い学生と連携を図って適切なコーディネートを行っている。		
養成方法	初心者対象、経験者対象の研修会を毎月2回ほど実施。支援室担当教員も研修に助言・協力している。		
文字通訳の取組の特徴	本学のしょうがい学生支援を、特別支援教育におけるしょうがい児・者支援の実践に必要な不可欠な知識と実行力の養成として位置づけて活動している点。授業でビデオやスライドを使う場合、4画面画像表示システムで1つのスクリーン上で映像と字幕との関係を把握しやすくする点。		

手話通訳

利用者数	6名(内教員1名)
手話通訳者数	2～6名(地域通訳者のみ)
サービス提供時間数	オリエンテーション、卒業論文・修士論文発表会等単発的支援のみ
報酬および経費	外部派遣機関の規定による
募集方法	みやぎ通訳派遣センターに依頼。できる限り本学への派遣実績のある通訳者を派遣するよう依頼。
コーディネート方法	発表会等の日程が決定後、担当の各主幹から派遣依頼。聴覚しょうがい部会担当教員が依頼方法・手話の表出について助言。
養成方法	担当教員と一緒に事前検討会及び事後反省会。大学で使用する専門用語の手話を作成し、大学レベルの手話通訳者の養成を行っている。
本学手話通訳の特徴	教員・学生も手話通訳者が通訳しやすい環境整備に協力している点。

聴覚補償

利用者数	2名
サービス提供時間数	週2コマ
補償方法	①赤外線補聴システム (赤外線ラジエーター《リオン》) ②電波を使った補聴システム (パナガイド《Panasonic》)
補償方法の選択	講義室の状況、講義の形態、個々の使用している補聴器の種類などによって補償を行う。集団討論に対応可能なシステムも構築した。
本学聴覚補聴の特徴	比較的多くの種類の補償方法の中から最適な方法を選択できる点。

Check!

しょうがい学生支援室という専門部署を中心とした全学的な支援体制の拡充

一人一人にあった支援体制の構築を

本学は、特別支援教育全領域をカバーできる専門教員が揃っており、その専門的人的資源を最大限に活用するために「しょうがい学生支援室」を設立して、しょうがい学生支援体制の充実化を図っている。

本年度は、平成19年度学生支援GP「しょうがい学生も共に学べる総合的支援」で、1)学生教育研修事業、2)しょうがい学生支援技術開発促進事業の2つを実施して4年目を迎える。この成果は、上記の情報保障の取り組みにもあらわれており、講義内容・形態から適切な支援方法を選択できるようにしている。映像への字幕付けサービスの開始、学内の通訳ブースの整備による遠隔地通訳を可能とした。しかし周囲の一方向的な支援構築に終始しないように、まず聴覚しょうがい学生のニーズを教育的な観点から評価し、求められる支援技術や対応方法を講じることを出発点とし、そのために聴覚しょうがい専門教員とコーディネーターが随時協議して聴覚しょうがい学生一人ひとりの問題状況の把握と支援の方針を共通確認して実施している。

問い合わせ先

宮城教育大学 しょうがい学生支援室
MAIL:Support-Coordinator@ml.miyakyo-u.ac.jp
TEL/FAX:022-214-3651

みやぎDSC

(Deaf Support[Students] Center)

形態	任意団体
所在地	〒981-0908 仙台市青葉区東照宮1丁目 17-1-116 高橋方 FAX 022-233-9571

- 創設 2003年4月1日
- 代表 松崎 文
- URL <http://blogs.yahoo.co.jp/jyohosaposen>

運営スタッフ

14名
(兼務あり)

代表	1名
事務局	3名
相談事業	4名
普及・啓発事業	4名
養成・研修事業	4名
ネットワーキング事業	4名

事業内容・実績

相談事業	教職員及び聴覚障害学生対象の相談及びその保護者、関係者等の総合的な相談を行う。	養成・研修事業	聴覚障害学生・支援者・教職員それぞれの対象者に合わせた養成・研修を行う。
普及・啓発事業	教育機関や地域に向けた聴覚障害学生支援に関わる広報活動及び啓発行事の開催。対象者の幅を広げ、中高生・保護者等広範囲を対象とする。	ネットワーキング事業	聴覚障害学生支援関係の団体との情報交換・課題の共有・ノウハウの提供を行う。

みやぎDSCの活動 (2009～)

1. 相談事業
2009年 相談 20件 聴覚障害学生のニーズ調査 3名
2010年 相談 18件 聴覚障害学生のニーズ調査 1名 (8月末現在)
2. 養成・研修事業
2009年 第6回情報保障セミナーを開催
岩手県要約筆記養成講座研修会
2010年 大学へのノートテイク養成講座 4回 (受講人数 106名)
3. 普及・啓発事業
2009年 「かほく108」より助成を受け、パンフレット(2種)を作成・関係機関に配布
2010年 みやぎDSCのホームページ開設
4. ネットワーキング事業
PEPNet-Japan、県内聴覚障害関係団体とのつながりを継続中

大学への専門的支援の拠点として

宮城県内の中・高等教育機関で学ぶ、聞こえない・聞こえにくい学生（聴覚障害学生）と中・高等教育機関を支援する専門的組織として、2003年4月1日に「宮城県・仙台市聴覚障害学生情報保障支援センター」として設立されました。2009年度より、団体名を『みやぎDSC』と変更し、宮城を活動の拠点に東北地方における中・高等教育機関に所属する聴覚障害学生・支援学生・教職員に対して多角的な支援を行います。（みやぎDSCパンフレットより）

Check!

学生、大学、関係機関、地域とのつながりを活かした支援がウリ！



問い合わせ先：所在地参照

東京大学

●支援組織名称 バリアフリー支援室

●スタッフ 職員7名（うち手話通訳士1名）

聴覚障害学生		学部生	
視覚障害学生		院生	
肢体障害学生			

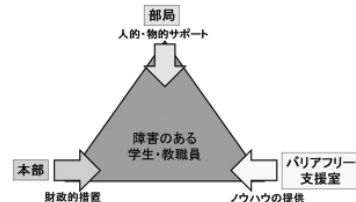
※学生在籍数の詳細については非公表とさせていただきます。

ノートテイク・パソコン要約筆記

提供しているサービス	☑ノートテイク☑パソコン要約筆記		
利用者数	若干名	学部生	
		院生	
ノートテイク数	80名（NT 60名／PC 20名）		
サービス提供時間数	年間約2,200時間程度		
報酬および経費	925円／時間（支援室運営経費）		
募集方法	掲示板への募集ポスター掲示、学部専用HPでの講座開催案内、新入生ガイダンスでの支援室紹介 など		
コーディネート方法	学期開始時に学生、所属学部等担当者との面談を行い、ニーズを確認したうえで授業ごとのサポート内容を検討・調整する。授業開始後も随時サポート内容の確認・再調整を行う。		
養成方法	ノートテイク講座・パソコンテイク講座（各3時間）を学期開始時に複数回実施。個別講座やフォローアップ研修、学生のニーズにあわせた追加講座も随時行う。		
本学ノートテイク・パソコン要約筆記の特徴	学生の履修科目への派遣だけでなく、学内で行われる研究会や各種研修等の場にも、教員・研究員からの依頼を受けて学生テイクを派遣する場合がある。		

設置形態	国立大学
学生数	約28,000人
所在地	〒113-8654 文京区本郷7-3-1

学内支援組織図



その他の支援

機器の貸出・補聴相談への対応	F M補聴システム、I Cレコーダーなどの支援機器貸出を行っている。補聴相談については、学生からの要望を受け、学内外の補聴相談専門家を紹介する体制をとっている。
文字起こし・字幕挿入	講義録音の文字起こし、映像教材の文字起こし・字幕挿入をサービスとして提供している。
シンポジウム等での情報保障支援	学内で開催される学会・シンポジウム等での情報保障全般について、コーディネーターが相談に応じている。主催者（学内関係者）から依頼や相談があった場合は、内容を確認したうえで、適任の手話通訳者や要約筆記者団体、派遣センター等を紹介する他、情報保障依頼にあたっての具体的な対応についても、アドバイスを行う。
入学式・卒業式での情報保障	聴覚障害学生の有無にかかわらず、手話通訳と、PC要約筆記を実施。

Check!

学部等との連携体制

学部等と支援室の連携によるきめ細かい支援

意見交換会・交流会の開催

駒場キャンパスでは学期ごとに障害のある学生とサポートスタッフの意見交換会が開催され、サポートをする立場、受ける立場、それぞれが普段感じていることや、疑問に思っていること、サポートの改善点などについて、率直に話し合う機会となっている。

また、バリアフリー支援室本郷支所では月2回、学生・教職員を対象に、手話に気軽に親んでもらうことを目的とした「手話でしゃべランチ」を開催。学内で働く聴覚障害職員も複数参加し、手話によるミニ講演や質問コーナーなどを通じて交流を深めている。



サービス向上を目指して

学生のニーズの多様化に合わせ、遠隔情報保障などの新たな情報保障手段や、支援技術の導入に積極的に取り組むとともに、学生の心理的負担を軽減し、状況に応じて最適なサポートを提供できるよう、支援室のスタッフは学内外の研修を通じて見識を深め、サービスの向上を目指している。また、東京大学憲章に基づき、修学環境の一層のバリアフリー化にむけて、学生や教職員への理解啓発を進めている。

参考資料

バリアフリー支援室ホームページ
<http://ds.adm.u-tokyo.ac.jp/>

問い合わせ先

E-mail: spds-staff@mm.itc.u-tokyo.ac.jp

関東聴覚障害学生 サポートセンター

- 創設 1984 年（創設当初は関東学生情報保障者派遣委員会）
- URL <http://kantou-saposen.main.jp/>

形 態	任意団体	
所在地	事務所を持たず、コーディネーターやコンサルタントのノウハウを持ったスタッフのネットワークによって運営。	
運営スタッフ	14 名	会計、広報、相談、養成、コーディネーター

事業内容・実績

相談事業 1	聴覚障害学生本人及び、支援に当たる大学担当者に対し、相談及び情報提供を行う。 2009 年度の相談件数は 30 件程度。通訳の利用や養成講座、サポート全般についての情報を求めるものがほとんどである。
相談事業 2 （ろう学生相談員）	聴覚障害学生からの相談に対しては、サポートサービスを利用した経験の深いろう者スタッフが対応し、心理面のサポートや情報提供に当たる。
養成事業	大学からの依頼に応じてノートテイク養成講座を開催する。事前打ち合わせ、カリキュラム構成、養成後のフォローアップも含めてサポートし、3 年後には大学独自で養成が担える体制作りを目指す。2009 年度 5 件実施。
通訳者の 紹介・斡旋	大学の支援の一環として依頼に応じて手話通訳者、ノートテイク等者の紹介、斡旋を行う。 また、地域資源の活用などについてアドバイスを行う。
研修・講師派遣 事業	地域のサークルや大学等の依頼に応じて情報保障者養成及び指導者養成の研修会等に講師を派遣する。 2006 年度以降は大学職員向け研修も実施。

普及・啓発事業	「聴覚障害者と高等教育」フォーラムの開催や関連誌への寄稿を通して、聴覚障害学生支援の必要性や現状と課題を発信してきた。 2006 年度以降は企業向け啓発研修の依頼も受けて実施。
ネットワーキング 事業	学生当事者団体や地域の要約筆記・手話通訳グループ、通訳派遣機関等との連携や情報交換を行う。
「聴覚障害者と高等教育」フォーラムの開催	1997 年より年 1 回、聴覚障害学生支援の先進的な事例紹介や情報交換などを通じ、高等教育の将来像を模索するフォーラムを開催。 2006 年に開催した第 9 回では、全国から約 60 名の参加があり、分科会形式で議論を深めた。
研修会の開催	フォーラムでの議論をより深め、関係者どうしのネットワーク作りを促進することを目指し、ニーズに応じたテーマを設定して、聴覚障害学生対象、教職員対象、通訳者対象の小研修会を開催した。教職員向け研修会では、専任コーディネーターの講演や、ノートテイク講座の見学会を実施した。 2007 年度以降は、聴覚障害学生自身の活動に対する支援に力を入れ、学生団体と共同で企画・運営する研修会などを運営している。

長期的な視野で、できることから支援体制づくりを

聴覚障害学生の入試相談と同時に、支援の必要性に気づいて何らかの対応を取る大学が増えてきたことから、サポートセンターでは、一つひとつの大学が支援の経験を培っていくための支援を提供している。入学した聴覚障害学生が卒業するまでの 4 年間、あるいはその後も長く安定した支援を提供できる体制となるよう、長期的な視野に立ち、その大学に合った方法で少しずつ体制を充実させていくための情報提供や研修活動を行っている。その一方で、情報や支援者の確保を求める聴覚障害学生や保護者からの相談も少なくない。今後は、大学間ネットワークと共に円滑で充実した支援を目指すとともに、専門的なノウハウを蓄積してきたスタッフの経験や知識を活かして聴覚障害学生向け相談事業の充実を図っていききたい。



＜教職員研修会の様子＞

参考資料

- ◇吉川あゆみ・太田晴康・広田典子・白澤麻弓（2001）
「大学ノートテイク入門」人間社
- ◇斉藤佐和監修 白澤麻弓・徳田克己（2002）
「聴覚障害学生サポートガイドブック」日本医療企画
- ◇吉川あゆみ他（2007）
「大学ノートテイク支援ハンドブック」人間社

問い合わせ先

上記 URL お問い合わせフォームよりお問い合わせください

群馬大学

●支援組織名称 大学教育・学生支援機構
学生支援センター 障害学生支援室

●スタッフ 職員 4 名

聴覚障害学生	5 名	学部生	4 名
		その他	院生 1 名
視覚障害学生	0 名		
肢体障害学生	0 名		

設置形態 国立大学法人

学生数 約 6800 人（学部・専攻科・大学院を含む）

〒371-8510

所在地 群馬県前橋市荒牧町四丁目 2 番地

学内支援体制

- ・平成 17 年 6 月 10 日に「群馬大学障害学生修学支援実施要項」を制定。障害学生への支援を全学で統一的行うため、支援の基準を統一化し、全学の予算で対応。
- ・平成 22 年度から大学教育・学生支援機構 学生支援センター 障害学生支援室として新たにスタートした。
- ・現在は障害学生支援室職員がコーディネートをを行い、各学部と連携して対応している。

ノートテイク・パソコン要約筆記

提供しているサービス	■ノートテイク■パソコン要約筆記		
利用者数	5 名	学部生	4 名
		その他	院生 1 名
ノートテイク数	登録テイカー 102 名		
サービス提供時間数	聴覚障害学生が希望するすべての授業（ゼミや就職ガイダンスなどの大学が実施する各種講座も含む）		
報酬および経費	800 円／時間（1 コマ 1,200 円）		
募集方法	学内にポスターを掲示。オリエンテーション等でのチラシ配布や呼び掛け（聴覚障害学生自身の呼び掛けも含む）と定期的な講習会の実施。		
コーディネート方法	コーディネートは障害学生支援室職員。テイクは登録学生テイカーが有償で行う。テイカーにはメーリングリストで情報保障の必要な日時等の情報を渡し、条件にあったテイカーを配置（基本的に半期固定）。テイカー自身の履修講義と重ならないよう調整する。1 講義（90 分）にテイカー 2 名配置。		
養成方法	登録時に講習 7.5 時間を行う。障害学生支援室職員と障害学生支援サークルが講師となり実践練習を含めて行う。		
本学ノートテイク・パソコン要約筆記の特徴	PC テイクは PC 連係入力ソフト（IPtalk）による 2 名連係入力。ゼミ形式の授業では教員や他の学生も字幕を確認できるよう、モニターやスクリーンを使用。講義以外の実習等、学外での情報保障も行う。		

手話通訳

利用者数	1 名	学部生	1 名
		その他	0 名
手話通訳者数	2 名		
サービス提供時間数	聴覚障害学生が希望するすべての授業（ゼミや就職ガイダンスなどの大学が実施する各種講座も含む）		
報酬および経費	職員のため、給与として支給		
募集方法	職員で対応できない場合は、群馬県認定手話通訳者協会と全国手話通訳問題研究会群馬県支部に紹介を依頼。		
コーディネート方法	障害学生支援室の職員がコーディネートをを行う。1 講義（90 分）に 2 名配置。		
養成方法	講義で通訳をしている様子をビデオ収録し、それをもとに聴覚障害学生を交えた反省会を行うことで技術向上に努めている。		
本学手話通訳の特徴	職員が手話通訳業務を担う。		

<その他>

FM 補聴器やデジタルペン、iPhone などを利用した障害の程度や環境に応じた学生のニーズに対応する情報保障を行っている。

Check!

ガイダンスや事務手続き等、講義以外の大学生活に関することについても情報を保障。全学的な統一基準により、どの学部でも質の高い支援体制が可能。

情報保障の充実に向けて

<情報保障サークル「てふてふ」>

聴覚障害学生と学生テイカーの交流と技術向上を目的として、サークルが立ち上げられました。支援室主催のテイカー養成講座にも協力している。

<手話通訳>

講義終了後に、聴覚障害学生を交えて反省会を行い、専門用語の決定・確認など、大学講義特有の通訳方法を検討し、技術向上に努めている。

サービス向上を目指して

学生のテイカーは卒業し入れ替わってしまうので、新規のテイカーの募集にも力を入れている。その際、学生の協力を得て勧誘・紹介をしてもらうなど、学生同士のつながりも大切にしている。

ノートテイク、パソコン要約筆記、手話通訳いずれにおいても、技術向上のため、研修会を頻繁に開催することが課題である。

問い合わせ先

学務部学生支援課

（電話 027-220-7136 / FAX 027-220-7620）

障害学生支援室

（電話&FAX 027-220-7114）

静岡福祉大学

- 支援組織名称 静岡福祉大学学生総合支援センター内
障害学生支援室

- スタッフ 教員 6 名、職員 1 名

聴覚障害学生	(注)	学部生	(注)
		院生	
視覚障害学生	(注)		
肢体障害学生	(注)		

注：個々の障害形態と学生数についてはプライバシー保護のため原則として公表していません。

設置形態	私立大学
学生数	690 人（2010 年 10 月 1 日現在）
所在地	〒425-8611 静岡県焼津市本中根 549 番 1

学内支援組織図 学生総合支援センター内
障害学生支援室（各学科教員及び職員より構成）

ノートテイク（手書き）・パソコンノートテイク

提供しているサービス	◎ノートテイク（手書き） ◎ポイントテイク（手書き）※ ◎パソコンノートテイク		
利用者数	(注)	学部生	(注)
		院生	
ノートテイク数	26 名（NT 19 名／PC 7 名）		
サービス提供時間数	週 36 コマ		
報酬および経費	1,000 円／時間（＋交通実費）		
募集方法	学内外の掲示板にノートテイク募集案内を掲示。		
コーディネート方法	学生教務課職員が連絡調整を担当し、障害学生支援室が協力。		
養成方法	「パソコンノートテイクの技法」（半期 2 単位）を開講するほか、本学教員主宰のノートテイク勉強会を開催。		
本学ノートテイク・パソコンノートテイクの特徴	・本学教員が監修した専用ソフト「まあちゃん」を活用。 ・聴覚障害学生にとどまらず視覚障害、肢体不自由学生等も利用する。		

手話通訳

利用者数	(注)	学部生	(注)
		院生	
手話通訳者数	地域の公的派遣制度（公費派遣と本学費用負担派遣を併用）を活用することもある。		
サービス提供時間数	（現在はなし）		
報酬および経費	（公的派遣基準）		
募集方法	市（本人が申込）及び県（大学が申込）に依頼。		
コーディネート方法	学生本人、学生課職員、障害学生支援室長が公的派遣機関に依頼。		
養成方法	（手話通訳の養成はしていない）		
本学手話通訳の特徴	専門用語が頻出する。		

※ポイントテイクとは、聴覚障害以外の障害学生を対象に、板書の筆写、重点項目の筆記等、授業で伝達される情報のうち、ポイントに絞ったノート記録を指す。

Check!

障害学生支援室では、「障害のあるなしにかかわらず、ともに社会参加できる」教育環境を実現するための役割を担います。そうした環境を通じて私たちは、学生が本校を卒業したとき自らに必要な支援とは何か、第三者に説明し、主体的に最適な環境を作り上げていくことができるような方向を目指します。当事者によるセルフマネジメントの力をつけること、それは本学が掲げる「福祉力」の向上にもつながります。

文部科学省科学研究費補助金を活用した支援の構築を計画

文部科学省科学研究費（基盤研究B）を活用し、2009 年度から 2013 年度の 5 か年を通じ、「高等教育機関における障害学生『情報コミュニケーション』支援システムの構築」（研究代表者：太田教授）を研究課題として実施中である。支援方法であるノートテイクを聴覚障害にとどまらず、視覚障害、肢体不自由を含む障害学生の情報バリアフリーシステムとして位置づけ、障害種別を超えた総合的な支援を模索している。

サービス向上を目指して：障害学生支援の課題の一つは、支援費用の持続的な確保にあります。そこで本学では私立大学等経常費補助金の活用はもちろんのこと、県共同募金会への申請等、さまざまな知恵を絞っていますが、基本的な考え方として公的な保障が欠かせないと考えます。障害のあるなしにかかわらず学習権を保障する方向を誰もが当然のこととして認める社会の到来を心から願っています。

参考資料 <http://www.suw.ac.jp/>

問い合わせ先：静岡福祉大学 事務部入試広報室
TEL054-623-7451 FAX054-623-7453
E-mail siryo@suw.ac.jp

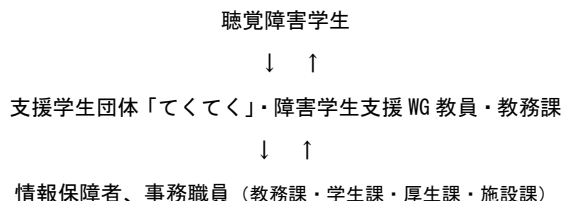
愛知教育大学

- 支援組織名称 障害学生支援ワーキンググループ (WG)
情報保障支援学生団体「てくてく」・教務課
- スタッフ WG 教員 5 名・「てくてく」スタッフ、教務課職員

聴覚障害学生	2 名	学部生	2 名
		院生	0 名
視覚障害学生	1 名		
肢体障害学生	0 名		

設置形態	国立大学法人
学生数	4308 名 (学部 3892・大学院・386・専攻科 30)
所在地	〒448-8452 愛知県刈谷市井ヶ谷町広沢 1 (名鉄本線「知立駅」より名鉄バス 20 分)

学内支援組織図



パソコンテイク・ノートテイク

提供しているサービス	パソコンテイク・ノートテイク		
利用者数	2 名	学部生	2 名
		院生	0 名
ノートテイク数	52 名 (講義担当 25 名、他の学生は DVD・ビデオ等の字幕付けの担当)		
サービス提供時間数	週 16 コマ (すべて PC テイク)		
報酬および経費	2800 円/1 コマ (90 分) (支援学生 1 名につき 1400 円支給。各講義 2 名配置。)		
募集方法	(PC) 新年度のガイダンス等で、全学的に有志の学生を募集している。 (NT) 専門性を必要とする英語・第二外国語・数学・理科等の講義は、関係する講座の教員に専門性の高い学生を推薦・紹介してもらっている。		
コーディネート方法	学生コーディネーターが、聴覚障害学生のニーズを把握し、各種配置、コーディネート業務を行っている。		
養成方法	学期の始めに、情報保障担当者の説明会を実施している。また、週 2 日 (月・木)・昼休みを利用して、連絡および研修する場を設けている。		
本学ノートテイク・パソコン要約筆記の特徴	携帯連絡システムによる情報交換・中間・事後報告会等の実施を重ねながら、量的・質的向上を図っている。		

その他の支援

学外手話通訳者の派遣	授業の形態によって、PC ノートテイクでは対応が難しい場合は、学外手話通訳者の派遣を依頼している。(10000 円/1 コマ (90 分)、通訳者 1 名につき 5000 円支給。2 名配置。)
視聴覚教材の字幕作成	講義で視聴覚教材を使用する場合は、事前にメディアを借り、字幕付けの作業を行っている。
音声認識システムを用いた支援学生の負担軽減	市販の音声認識ソフトウェアを、主に視聴覚教材の文字起こし作業に利用している。
式典、各種説明会での情報保障	式典や、大学が主催する講義以外の各種行事 (教務ガイダンス、オープンキャンパスなど) で、主にパソコンノートテイク・手話通訳による情報保障を行っている。
無線 LAN を用いた離れた場所での情報保障	講義中、支援学生が聴覚障害学生の隣にすることは、聴覚障害学生にとって心理的な負担となる。そのため、基本的に、教室内の離れた場所で、入力支援を行っている。

Check!

学生のノートテイク・パソコンノートテイク、学外手話通訳者による情報保障

聴覚障害学生の充実した学生生活の支援

- (1) 情報保障学生団体「てくてく」の活動 全学的に 52 名の学生が支援活動に係わり、聴覚障害学生とともに学内の支援に関して情報交換・研修を行っている。
- (2) 他大学の支援活動 東海地区の大学より要請があれば研修会を開催し、本学の支援活動のノウハウを紹介している。
- (3) 様々な聴覚障害学生の支援
 - 1) 講義保障 ノートテイク、パソコンテイク、手話通訳による支援が、聴覚障害学生のニーズに応じて実施されている。
 - 2) 講義以外の情報保障 入学式・卒業式などの各種行事、各種実習、ガイダンス時の情報保障も実施している。
 - 3) 教育実習での配慮 聴覚障害学生の小学校教育実習は、附属小学校又は通常小学校での実習を、県内聾学校の小学部実習に振り替えることができる。

サービス向上を目指して

- ・聴覚障害学生は、特別支援学校教員養成課程に在籍しているため、同課程内の聴者の学生の各種支援に関する問題意識が高いこと等、恵まれた環境にある。
 - ・情報保障者が担当できる時間帯などに制約があり、一部の学生に作業が集中するといったことが生じている。
- 課題を整理し、よりよいサービスを目指していきたい。

参考資料 「愛知教育大学 障害学生支援ガイド」
「愛知教育大学 聴覚障害学生の情報保障 教員用ガイドブック」
「愛知教育大学 保障団体『てくてく』リーフレット」

問い合わせ先 注) ①情報教育講座、②障害児教育講座
① 高橋 岳之 e-mail: take@aecc.aichi-edu.ac.jp
② 岩田 吉生 e-mail: yiwata@aecc.aichi-edu.ac.jp

日本福祉大学

● 支援組織名称 日本福祉大学障害学生支援センター
URL <http://www.n.fukushi.ac.jp/shiencenter/index.htm>

● スタッフ センター長 1 名 センター教員 1 名、
専任職員 1 名、委託職員 3 名

聴覚障害学生	58 名	学部生	47 名
		院生	0 名
		通信	11 名
視覚障害学生	31 名		
肢体障害学生	59 名	その他	26 名

設置形態	私立大学
学生数	5540 人（院生、通信を含むと 12,322 人）
所在地	〒470-3295 愛知県知多郡美浜町奥田

学内支援組織図

障害学生支援センターは全学学生支援機構の一機関

障害学生支援センター運営委員会（各学部の教員、教務・就職関係職員、学生生活センター職員で構成）

ノートテイク・パソコン要約筆記

提供しているサービス	■ノートテイク■パソコンテイク		
利用者数	32 名	学部生	32 名
		院生	0 名
ノートテイク数	ノートテイク 115 名 パソコンテイク 28 名		
サービス提供時間数	144 コマ／週（2010 年前期）		
報酬および経費	ボランティア（奨励金支給）		
募集方法	入学当初のオリエンテーションやボランティア論等の講義で聴障学生が呼びかけ。各自が掲示板に募集ポスターを掲示。障害学生支援センターのボランティア登録者へ依頼。		
コーディネート方法	聴覚障害学生自身が直接依頼するか、障害学生支援センターからボランティア登録者へ依頼する		
養成方法	ボランティア実践基礎講座（外部講師）ノートテイク相談会、ボランティア講座（学生主催）、サークルによる練習など。		
本学ノートテイク・パソコン要約筆記の特徴	複数の聴覚障害学生が受講している場合は、OHC を利用。設置は障害学生支援センターで実施。経験ある学生と障害学生が学生スタッフとして、運営・指導に協力		

ともに考える支援

障害学生支援センターの設置	学習支援や生活支援の方法は、障害学生・支援学生・教職員が一緒に考えます。 障害学生の生活から、ボランティア活動支援まで、障害学生支援センターがさまざまな相談に応じています。
入学式での手話通訳者設置	入学式、卒業式、全学的な講演会、受講ガイダンスなどで設置
磁気ループの敷設	大講義室の全教室（1～5 号館）、1101 教室、文化ホール、図書館 AV ホール、半田キャンパス 101 教室
字幕	講義に利用する VTR について、学生サークル「くまじ」が字幕デコーダーを利用して字幕を付けている。字幕が間に合わない場合には、ボランティア登録学生が分担して、音声文字化し、プリントアウトして障害学生に渡す
手話通訳派遣事業	2010 年度から、2・3 年生の希望者のゼミへ、年 15 回まで派遣。

支援サークルの活動

学生が「ともに学び、ともに育つ」

- ・点訳サークル「にゅーてんてん」…講義資料等の点訳
- ・音訳サークル「ふきっこ」…資料の音訳、読み聞かせ
- ・字幕づけ「くまじ」…教材 VTR の字幕づけ
- ・パソコンテイク「PCT」…パソコンテイク
- ・学生スタッフ…ノートテイク初心者への指導、機材のセッティング、ボランティア講座への協力、ボランティア団体の連携支援

※聴覚障害者団体や視覚障害者団体も、障害学生支援センターの事業に協力しています。

参考資料

障害学生 & サポート学生のためのキャンパスガイド、
障害学生支援センター年報（当センター発行）

問い合わせ先

日本福祉大学障害学生支援センター
TEL: 0569-87-2432 FAX: 0569-87-2376
Email: support-c@ml.n-fukushi.ac.jp

同志社大学

●支援組織名称 障がい学生支援室（事務局：京田辺校地学生支援課）
URL <http://www.doshisha.ac.jp/students/support2/shogai/>

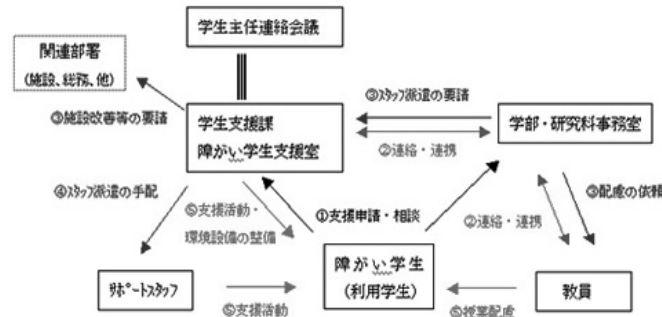
●スタッフ 職員 6 名（うち手話通訳者 1 名）

聴覚障がい学生	53 名
視覚障がい学生	10 名
肢体障がい学生	19 名
内部障がい学生	11 名

* その他 重複障がい学生 3名

設置形態	私立大学
学生数	27,609人（2010年5月1日現在、大学院生含む）
所在地	<p>【京田辺校地】 〒610-0394 京田辺市多々羅都谷1-3</p> <p>【今出川校地】 〒602-8580 京都市上京区今出川通烏丸東入</p>

学内支援組織図



ノートテイク・パソコン通訳

提供しているサービス	ノートテイク（NT）、パソコン通訳（PC）		
利用者数（聴覚）	制度登録 13名	学部生	12名
		院生	1名
ノートテイク者数 パソコン通訳者数	2010 春スタッフ登録 350 名 2010 春活動者：NT23 名 PC74 名		
サービス提供時間数	2010 春学期：週 95 コマ（NT コマ／PC コマ）		
報酬および経費	880～1012 円／時間（大学経費）		
募集方法	入学時説明会・掲示板・立看板・ＨＰ・学生支援課企画の映画や大型ビジョンによる募集		
コーディネート方法	障がい学生支援室のコーディネータが障がい学生の相談窓口となり支援スタッフの募集・養成・派遣・相談等調整を担当。障がい学生在籍学部事務室を始め全学的に入学前から連携をとり対応。		
養成方法	前期、後期にノートテイク・パソコン通訳事前勉強会・入門講座を継続的に開催。その他、随時希望があれば対応。		
本学ノートテイク・パソコン通訳の特徴	学期前面談により、利用学生のニーズに合わせた講義保障を提供。学期末に懇談会の実施。学際科目として夏期集中講義「心のバリアフリー」をめざして一障がい学生支援を起点として一を開講（単位付与）。		

ビデオ文字起こし・字幕付け

利用者数（聴覚）	制度登録 13名	学部生	12名
		院生	1名
字幕付け数	15本（利用者数4名）		
報酬および経費	880／時間（大学経費）		
募集方法	入学時説明会・掲示板・立看板・HP・学生支援課企画の映画や大型ビジョンによる募集		
コーディネート方法	学生支援課の障がい学生支援コーディネータが窓口となり、利用学生および担当教員の依頼に応じて対応。字幕付け専用ソフト・PC有。		
養成方法	勉強会を適宜実施。		

手話通訳

手話通訳についても対応しております。入学式・卒業式・クリスマス燭火讃美礼拝は、聴覚に障害のある学生・ご父母のため、手話通訳を必ず実施しております。

Check!

全学的な組織による講義保障！
(学生同士の関わりの中で育む制度)

コミュニケーション・デバインドの克服

障がい学生のみではなく、支援スタッフにも着目し、学生同士の関わりの中で自然に手をさしのべられるような大学を目指す。

具体的な場の設定・・・2010年度

- ・ランチタイム手話勉強会

聴覚障がい学生を囲みランチをとりながらの勉強会

- ・「心のバリアフリー」をめざして一障がい学生支援を起点として－
(学際科目)

主として聴覚障がい学生の講義の実際を理解し、「コミュニケーションのバリアフリー」をキーワードとして、障がい学生と支援するスタッフ双方の気づきに着目しながら、自律的な成長の実現を目指す。

サービス向上を目指して

約 27,000 人の学生が在学している中で、障がい学生支援スタッフは 1%にも満たない状況となっている。合格者の第一次手続き者への郵送物に「障がい学生支援制度一案内パンフレット」を封入し、全教職員に「障がい学生支援制度－教職員のためのガイドー」を配布しているが、もっと身近な取り組みとしてサポートを行えるよう、啓発していかなければならない。また、障がい学生の就学支援についてもキャリアセンターと共に取り組んでいる。

參考資料

障がい学生支援制度—案内パンフレット—

問い合わせ先

学生支援センター 京田辺校地学生支援課 障がい学生支援室
tel 0774-65-7411 fax 0774-65-7024

立命館大学

●支援組織名称 立命館大学障害学生支援室

●スタッフ 専門契約職員 2 名、学生スタッフ 80 名

聴覚障害学生	7 名	学部生	7 名
		院生	0 名

設置形態	私立大学
学生数	35,600 人
所在地 (法人本部)	〒604-8520 京都市中京区西ノ京朱雀 1

学内支援組織図



ノートテイク・パソコン要約筆記

提供しているサービス	ノートテイク、パソコン要約筆記、手話通訳、ループ使用等		
利用者数	2 名	学部生	2 名
		院生	0 名
ノートテイク数	50 名		
サービス提供時間数	週 25 コマ		
報酬および経費	800 円/時間 (1 コマあたり 2 時間)		
募集方法	講習会を開催し、受講者のうち希望者をスタッフとして登録。専門性の高い授業の場合は教員・学部事務室を通して募集。		
コーディネート・養成方法	障害学生支援室にてテイク講習や連携練習を実施。学部・語学など属性に合わせてコーディネート。その際、学生コーディネーターが活躍している。		
本学ノートテイク・パソコン要約筆記の特徴	ノート・パソコンテイクだけでなく、教員、受講生への配慮依頼、席の配置、機器の使用などを組み合わせて、最適な方法を追求している。		

その他の支援

入学式・卒業式での配慮	希望に従って、手話通訳、車椅子の誘導、ガイドヘルプなどを配置。
視覚障害学生の授業支援	教材加工、映像解説、試験時の点訳・墨訳等
肢体不自由学生の授業支援	ポイントテイク (ノート作成)、介助、定期試験時の配慮等
専用パソコン室の設置	肢体不自由学生用 (音声入力ソフト・トラックボールマウス等)、視覚障害学生用 (音声読み上げソフト、点訳ソフト、点字プリンタ、拡大読書器) の機器を設置、支援室開室時に使えるように整備。
学生ルームの設置	学生スタッフの活動拠点となる学生ルームを障害学生支援室横に設置。障害学生との交流の場としても活用されている。
教員への配慮文・手引きの配布	授業担当教員に配慮文・手引きを配布し、随時障害学生支援室にて教員のサポートを行っている。
講習会開催	ノート・PC テイク、介助等の講習会を年 10 回以上開催。

Check!

全学受付窓口の設置

障害学生・支援学生スタッフ・教員・職員の一貫相談受付窓口設置 (障害学生支援室)

学生スタッフ

立命館大学では、従来からボランティアとして障害学生を支援してきた学生と、各種講習会に参加した学生が中心となって、障害学生の支援を行っています。

特徴としては、学生のコーディネーターが、シフト組みや障害学生・支援学生のメンタ的な役割を担い、チームを組んで支援を行うなど、学生同士の関係構築に力を入れています。

障害学生と、学生スタッフ両方の成長につながる仕組みづくりに取り組んでいます。

取り組み

★ 各種講習会の実施
ガイドヘルプ講座、PC・ノートテイク講座、映像解説講座など

★ 密な連絡体制
ミーティング、メーリングリストなどで活動状況を把握、連絡体制を取っています。



参考資料

HP <http://www.ritsumeai.ac.jp/acd/ac/kyomu/drc/>

問い合わせ先

立命館大学障害学生支援室
Tel 075-465-1952 Fax 075-465-1982
E-mail drc@st.ritsumeai.ac.jp

関西学院大学

- 支援組織名称 ・教務部キャンパス自立支援課
・障がい学生支援委員会
- スタッフ コーディネーター 2 名、スーパーバイザー 3 名
コーディネーター 2 名を含め、職員は 6 名

聴覚障害学生	7 名	学部生	6 名
		院生	1 名
視覚障害学生	6 名（学部生 2 名：重複 1 名含む 院生：4 名）		
肢体障害学生	19 名（学部生 14 名、院生 5 名）		

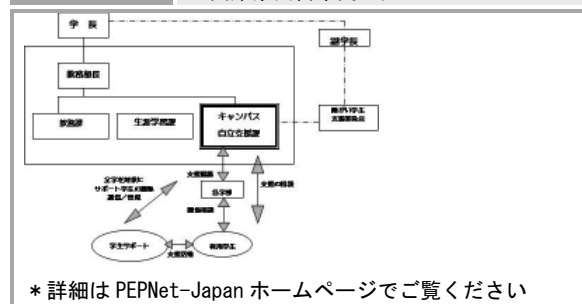
ノートテイク・パソコンテイク

提供しているサービス	■ノートテイク ■パソコンテイク		
利用者数	5 名	学部生	5 名
		院生	0 名
ノートテイク数	148 名		
サービス提供時間数	週 55 コマ (NT 19 コマ/PC 36 コマ)		
報酬および経費	1000 円/時間		
募集方法	募集ポスター・チラシ・立て看板・大学の HP により募集。すでに参加している学生による口コミも活用。		
コーディネート方法	コーディネーターが、ノートテイクの配置・連絡・調整を担当。ML を活用し、代理テイクの確保・連絡等を行っている。		
養成方法	ノートテイク・パソコンテイク養成講座 (10 時間) を前期・後期に実施。(コーディネーターが講師。聴覚障害学生や先輩テイクも講師として協力)。中間ミーティングで各授業支援方法を見直し、改善案をその学期に活かす。		
本学ノートテイク・パソコンテイクの特徴	ノートテイクは主筆と補助に分かれ交代で行う。補助は A4 半分サイズの用紙を活用し、授業のポイントや瞬時に伝える必要があることを書き止め、主筆が書き漏らした点を補う体制を取っている。パソコンテイクは、パソコンテイク 2 人に手書きサポート 1 人を加えた 3 人体制で実施している。学期末にはアンケートを実施し、毎学期末ごとに意見交換会の場を持ち、制度運営の見直しを行う。		

参考資料

関西学院大学（教務部キャンパス自立支援課）
キャンパス自立支援について
<http://www.kwansei.ac.jp/shien/>

設置形態	私立大学
所在地	（上ヶ原キャンパス）〒662-8501 兵庫県西宮市上ヶ原一番町 1-155 （神戸三田キャンパス）〒669-1337 兵庫県三田市学園 2-1 （聖和キャンパス）〒662-0827 兵庫県西宮市岡田山 7-54



その他の支援

入学式での手話通訳者設置	該当者がある場合には実施する。手話が利用できない場合は、ノートテイク/パソコンテイクで対応する。
キャリアガイダンスへの手話通訳・ノートテイク・パソコンテイクの派遣	本人からの依頼があった場合は派遣する。
磁気ループの敷設	設置している（一部の教室は除く）。
字幕デコーダーの設置	音声情報の文字起こし、さらに字幕付けを行っている。
対面朗読	支援学生が利用学生の必要とする資料を読み上げる。

Check!

複数のキャンパスへの細やかな支援
西宮上ヶ原キャンパス、神戸三田キャンパスに
コーディネーターが勤務しています。

問い合わせ先

教務部キャンパス自立支援課
西宮上ヶ原キャンパス
〒662-8501 兵庫県西宮市上ヶ原一番町 1-155
電話：0798-54-7264 FAX 0798-54-7044
E-mail: jiritsu-nuc@kwansei.ac.jp
神戸三田キャンパス
〒669-1337 兵庫県三田市学園 2-1
電話：079-565-7903 FAX 079-565-7929

金沢大学 大学教育開発・支援センター

●支援組織名称 大学教育開発・支援センター
<http://www.rche-kanazawa-u.jp/>

●スタッフ 教員5名（専任職員0名）

聴覚障害学生	0名	学部生	0名
視覚障害学生	0名	院生	0名
肢体障害学生	0名		

設置形態	国立大学法人
学生数	10,405名（平成22年5月1日現在）
所在地	〒920-1192 石川県金沢市角間町

障害学生支援委員会

教育担当副学長（委員長）

大学教育開発・支援センター長

保健管理センター長

学生部担当課長他

ノートテイク・パソコン要約筆記

提供しているサービス	ノートテイク、パソコンノートテイク		
利用者数	0名	学部生	0名
		院生	0名
ノートテイク数	0名		
サービス提供時間数			
報酬および経費	950円／1時間（学生部予算）		
募集方法	掲示板に募集ポスターを掲示。学内ポータルにおける募集。ランチオンセミナー（昼食時に開催）にて、説明会。		
コーディネート方法	共通教育科目（教養科目）に関しては共通教育学務係が、専門科目に関しては聴覚障害学生の所属している学類学務係が担当。		
養成方法	学外の講師によるノートテイク養成講座（障害学生支援委員会主催）を年度末に開催。支援学生がいる場合には、前期にも実施。		
本学ノートテイク・パソコン要約筆記の特徴	近隣の他大学から依頼を受けて、ノートテイクによる派遣の実績有り		

その他の支援

入学式での手話通訳者設置	学外組織に依頼
磁気ループの敷設	
字幕デコーダーの設置	

Check!

多様な障害に対する、研究に基づく有効な支援方策を学内外に提言

トピック

センター企画の1年前期共通教育科目「学生と大学システム」（自由履修）において、15回のうち2回、聴覚に障害のある社会人を手話通訳付きで講師としてお願いしている。授業情報保障が無かった大学での学生生活を振り返っていただき、聴覚障害学生にとって、大学での授業は情報保障がなければ、理解は不可能であることを語ってもらっている。

ノートテイクを、担当時間数に応じて、学長表彰および副学長表彰の対象者として推薦している。

学校教育学類の障害児教育担当教員との連携を図っている。

サービス向上を目指して

支援対象となる聴覚障害学生がここ6年間入学していないため、支援の方法について学生間での継続ができず、コーディネート担当職員についても移動により、ノウハウの蓄積が期待出来ないところに問題がある。数年前、日本学生支援機構の援助を得て、大学コンソーシアム石川加盟高等教育機関におけるノートテイクブール制度構築の試みを行ったが実現しなかった。

問い合わせ先

教育支援システム研究部門 担当：青野
aono@sgkit.ge.kanazawa-u.ac.jp

広島大学

●支援組織名称 アクセシビリティセンター

●スタッフ センター長、教員2名、情報支援コーディネーター1名、事務職員2名、ティーチングアシスタント4名、学生インターン20~30名

聴覚障害学生	4名
視覚障害学生	4名
肢体障害学生	6名
その他	6名

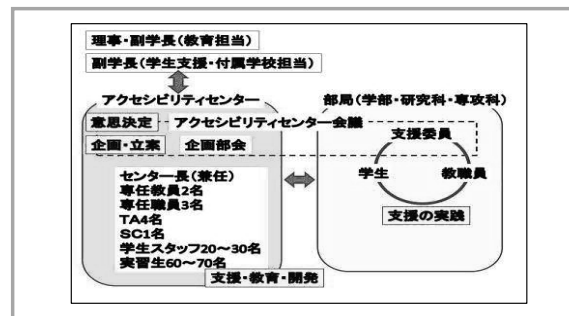
ノートテイク・パソコン要約筆記

募集方法	教養教育科目「障害学生支援ボランティア実習A,B」を開講/電子掲示板にて全学生に募集アナウンスを行う
コーディネート方法	該当学部にて学生コーディネーターを選任。 「障害学生支援ボランティア実習A,B」およびアクセシビリティセンターと連携してコーディネート。
養成方法	アクセシビリティ支援関連講義（教養教育3科目）の中で、筆記通訳、要約筆記の方法を指導。派遣のニーズに応じて、ノートテイク講習会を開催。アクセシビリティセンターで聴覚障害学生・ノートテイクの技術相談・ケアを行う。
本学ノートテイク・パソコン要約筆記の特徴	教養教育科目「障害学生支援ボランティア実習A,B」履修生（以下、実習生）は、支援活動に対して単位認定を、ボランティア登録学生等、実習生以外の形態で参加する学生には、社会貢献活動証明書を発行。

Check!

入学前から卒業までの一貫した支援
全学体制、学生教職員一体型の授業支援

設置形態	国立大学
学生数	約15000人
所在地	〒739-8511 東広島市鏡山一丁目3番2号



その他の支援

音声認識技術を活用した教育支援	ユニバーサルな教育支援として、音声認識技術を活用し、音声字幕付教材を作成（講義音声＋字幕＋プレゼン画面）。講義終了後、音声字幕付教材をWEB配信。 リアルタイムの情報保障としてリスピーク方式を試行中。
卒業式での手話通訳	必要に応じて実施。
ビデオ教材の字幕作成支援	字幕台本を作成し、事前配布。授業中は必要に応じてノートテイクが台本の進行状況を伝える。教材によっては動画への字幕付与を行なう。字幕作成作業は実習生や学生インターン等が行う。
筆談ボードの設置	各学部の学生窓口に設置。
障害学生への窓口対応パンフレットの配布	各学部の学生窓口、保健管理センター、図書館の職員へ配布。
補聴システムの設置	赤外線・FM・有線補聴システムを活用。
学生情報システム（ホームページ）での情報提供	シラバスに視聴覚教材情報の詳細（ビデオ本数、時間）を提示。
手話講習会・要約筆記講習会の開催	毎年、前期と後期に各1回~実施。
アクセシビリティリーダー育成	アクセシビリティリーダー資格認定制度を実施。 学内と地域で、資格取得者のインターン制度（ALI）を展開し、支援の充実を図る。

アクセシビリティリーダー育成プログラム（H20 教育 GP 採択）



年齢や障害の有無、言語や文化の違い等の多様性に関わらず、誰もが製品やサービス、環境や情報の利便性を教授できる“人に優しい社会”をリードする人材、“アクセシビリティリーダー”を育成する教育プログラム及び資格認定制度を推進・展開。
産学官連携の育成協議会を設立。

サービス向上を目指して

- ①知る機会、学ぶ機会の拡充
「オンラインアクセシビリティ講座」の配信
全学研修会、各種講習会の開催
- ②教育・人材育成の一環として、以下の科目を開講
「障害者支援 ボランティア概論」
「障害学生支援 ボランティア実習A,B」
「環境情報アクセシビリティ研究」
- ③ユニバーサルな教育支援方法の開発
次世代の教育支援方法を積極的に模索（音声認識活用など）

問い合わせ先

アクセシビリティセンター

TEL 082-424-6324, E-mail achu@hiroshima-u.ac.jp

URL <http://www.achu.hiroshima-u.ac.jp/>

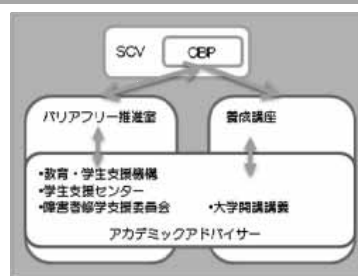
愛媛大学

設置形態	国立大学法人
学生数	9742 人（大学院生・研究生含む）
所在地	〒790-8577 愛媛県松山市文京町 3

- 支援組織名称（スタッフ数） バリアフリー推進室（4）
教育・学生支援機構 学生支援センター（5）
障害者修学支援委員会（10）
障がい学生支援ボランティア（Campus Barrier-free Promote）
（代表者 8、登録者 84）

聴覚障がい学生	3 名
視覚障がい学生	1 名
重複障がい学生	1 名（大学院生）
肢体障がい学生	4 名
発達障がい学生	2 名

学
内
支
援
組
織
図



ノートテイク・パソコン要約筆記

提供しているサービス	<ul style="list-style-type: none"> ■ノートテイク ■板書ノートテイク ■パソコンノートテイク ■ガイドヘルプ
ノートテイク人数	84 名（NT 84 名/PC 34 名）
サービス提供時間数	1 人週 15 コマ程度（NT 15 コマ）
報酬および経費	900 円/時間（障がい学生支援経費）
募集方法	掲示板に募集ポスターを掲示。 入学式などで、活動紹介。
コーディネート方法	バリアフリー推進室の契約職員 3 名が支援分担を調整している。利用学生とテイカーの調整を行う。出来る限り専門性、経験のある者を配置している。ノートテイクは 1 人の利用学生に対して 2 人つく事を原則としているが、一方を経験者にするなど、配置にはよりよいテイクの提供を心がけている。
養成方法	<ol style="list-style-type: none"> 1. 共通教育障害者支援ボランティア I 講座の集中講義（障害全般の概論 28 コマ）。 2. 共通教育障害者支援ボランティア II（ノートテイクのスキルアップを目的とした講義 15 コマ） 3. バリアフリー推進室開講基礎講座（随時開講）
本学ノートテイク・パソコン要約筆記の特徴	障害者修学支援委員会と CBP による運営。謝金等の資金提供は大学から提供している。

その他の支援

入学式・卒業式の 情報保障	パソコン要約筆記と手話通訳を設置している。
字幕システム	日本語及び英語の音声変換システムを用いて、情報保障に対応できるシステムを構築している。
盲ろう学生への対策	盲ろう学生向けの電子資料作成を行っている。
アカデミックアドバイザー	学外からの専門委員として学生と教職員の FD を担当し、様々な問題解決にあたっている。
スチューデント・キャンパス・ボランティア（SCV）の協力	学生ボランティア（SCV）は 9 つのグループより構成されている。その中の障がい学生支援ボランティア（CBP）が情報保障を主な活動を担っているが、必要に応じて他の団体の協力を得ている。
支援機器の貸し出し	視覚障がい、聴覚障がい、肢体障がい、広汎性発達障がい等、多様なニーズに対応する生活支援機器の紹介、貸し出し、フィッティングを行っている。

Check!

学生と教職員によるコラボレーション
学生ボランティアの主体的な活動が力に！

現状と今後の課題

- 愛媛大学での特色は大学組織である障害者修学支援委員会・バリアフリー推進室・学生ボランティア（SCV）のグループである CBP）による多方向からなる支援が挙げられる。
- バリアフリー推進室と CBP 代表者の会議を基に、学生ボランティアがそれに基づいた活動を展開している。利用学生やノートテイカーの意見を大きく反映するとともに、双方の学生の育成に貢献することを目指している。
- 障害者修学支援委員会メンバーの構成員は、専門教育者を中心に、関係学部から議題に応じて対応出来るメンバーで構成。
- 非常勤職員が、コーディネーター業務を担当するようになり、スタッフ学生の負担は軽減された。その分、支援学生に対してノートテイクや手話の技術などスキルアップ体制に力を入れられるようになった。
- 学生ボランティアの顧問は教職員とアカデミックアドバイザーが担っている。
- 幅広い障がい学生に対応できる支援システムに向けて学内全体で取り組みを行っている。

サービス向上を目指して

- ・バリアフリー推進室、教育・学生支援機構、障害者修学支援委員会、CBP の協力体制をより強固にし、より充実した支援体制の確立を目指す。
- ・利用学生、テイカーの問題点に早急に対応出来るよう、報告書の提出を義務化し、迅速なフィードバックが行えるようにする。
- ・利用者とテイカー同士の自由な意見交換ができる環境を提供する。

参考資料 SCV に関する大学ホームページ

URL: <http://www.ehime-u.ac.jp/SCV/>

問い合わせ先

学生支援センター TEL : 089-927-8970
バリアフリー推進室 : 石田・太田・村上
TEL : 089-927-8114 FAX : 089-927-9171
E-Mail : bfree@stu.ehime-u.ac.jp

福岡教育大学

●支援組織名称 障害のある学生の支援懇談会

●スタッフ 学生生活課職員 2 名、コーディネーター 1 名 (非常勤)

聴覚障害学生	2 名	学部生	2 名
		院生	0 名
肢体障害学生	1 名		
その他	1 名		

ノートテイク・パソコン要約筆記

提供しているサービス	ノートテイク、パソコン要約筆記		
利用者数	2 名	学部生	2 名
		院生	0 名
ノートテイク人数	20 名 (NT 名/PC 20 名)		
サービス提供時間数	週 11 コマ (NT コマ/PC 11 コマ) 2 名とも FM 補聴器を装着。		
報酬および経費	760 円/時間 (共通経費)		
募集方法	掲示板に募集ポスターを掲示。		
コーディネート方法	学生生活課職員と学生とが連絡調整を担当。		
養成方法	ノートテイク講習会 4 時間 (2h×2 回) を前期・後期に実施。		
本学ノートテイク・パソコン要約筆記の特徴			

設置形態	国立大学法人
学生数	学部 2875 人、大学院 204 人 特別専攻科 16 人、言障課程 8 人
所在地	〒811-4192 福岡県宗像市赤間文教町 1-1

学内支援組織図

その他の支援

入学式・卒業式での手話通訳者設置、字幕提示	有り (手話通訳士の資格を持つ教員が対応。字幕は学生による支援)
磁気ループの敷設	なし
聴力検査、補聴器の調整	言語聴覚士の資格を持つ教員が対応
FM 補聴器の貸出	FM 補聴器 4 台を準備

Check!

聴覚障害教育専攻があるため、専門的知識・技術を持つ学生が多い

トピック

1. 最初の支援は昭和 51 年度入学生から
2. SCS 研修を利用して、国内の他機関との情報交換を行ってきた。
<http://www.fukuoka-edu.ac.jp/~tomiohta/scsshien.htm>
3. 国内外の先進的取り組みを行っている機関を 5 ケ国 20 ケ所以上訪問し情報収集に努めてきた。FD 報告書として発行
「高等教育における障害のある学生への支援」(H19, 3) など
<http://www.fukuoka-edu.ac.jp/~dohira/FD/>
4. 中学や高校に在籍する聴覚障害児への支援について、福岡高等聾学校が 2005 年より行っている「聴覚障害学生情報サポート講習会」に実施協力している。今年度は遠隔情報保障 (筑波技術大学の協力による) を使用して熊本聾学校と中継を実施。
5. ノートテイクを学んだ学生が、小学校や中学校の通常学級で学ぶ難聴児への情報保障にもボランティアで通っている。
6. 日本学生支援機構の「障害学生修学支援ネットワーク」の拠点校にも選ばれている。今年度は「実習科目、外国語科目における聴覚障害学生への支援」についての委託研究で福岡大学と共同で研究
7. 筑紫女学園大学、福岡大学の支援学生と合同研修会、合同合宿を実施。FKC フレンズの名前で活動

サービス向上を目指して

- ・授業担当者による視覚的情報や資料の準備がかなりの程度なされており、ノートテイクというよりも配付資料に補足説明等を書き込むことが多いが、より理解しやすい提示法や説明を行えるように FD 研修を実施したい。
- ・支援対象の授業の既履修者にノートテイクになってもらえるようにし、より容易に内容理解ができるようにしたい。
- ・聴覚障害学生への支援と配慮についての解説用 DVD を試作し 30 人以上の教員に視聴してもらい、効果や問題点を分析。
- ・支援組織や人材を充実させたい

参考資料

FD 報告書 (H14, H15, H16, H17, H18, H19, H20)

問い合わせ先

障害学生支援室 TEL 0940-72-6062,
佐藤亜弥 havefun9@fukuoka-edu.ac.jp

国立大学法人 筑波技術大学

－ 聴覚・視覚に障害のある学生のための高等教育機関 －



本学は、聴覚障害・視覚障害を持つ学生のための全国で唯一の4年制大学です。

今年4月に大学院が設置され、より高度な勉学や研究が可能になりました。

最新の科学技術を利用して、聴覚・視覚の障害を補償する教育方法やシステム等の開発、聴覚・視覚障害学生を受け入れている他大学等に対する支援を推進しています。

聴覚障害系の天久保キャンパスでは、大学教育の内容を確実に履修できるよう、情報授受のバリアのない教育環境を目指しています。授業における教員の手話、口話、筆談等を使った学生との直接的なコミュニケーション。さらに教室等施設には、白板、大型スクリーン、字幕付ビデオ等の視覚で情報を授受できる設備が充実しています。手話を用いない非常勤講師による授業では、外部の支援団体にパソコン要約筆記や手話通訳を依頼しています。

聴覚障害学生のための情報保障及び学習支援

手話による授業



補聴に関する相談



情報保障者の配置



コミュニケーション指導



手話の学習支援

聴覚活用・手話・発話といったコミュニケーションに関する指導と支援を行っており、学外からの相談も受け付けています。

支援技術開発

情報保障機器の開発



字幕ビデオ教材の作成



先端技術に応用し、学習効果の向上を目指した障害補助機器やソフトウェアの開発、既存のシステムの評価等を行っています。

聴覚障害学生の大学生生活状況

国際交流



国際交流では
外国の留学生と
交流ができます。

サークル活動



みんなが
手話で話せる
から楽しい！



研究室の下で
にもけろくろり
中にもけろり
どっかかろり

視覚情報の透明化



寄宿舎生活



ほとんどの学生の
寄宿舎に入ります。

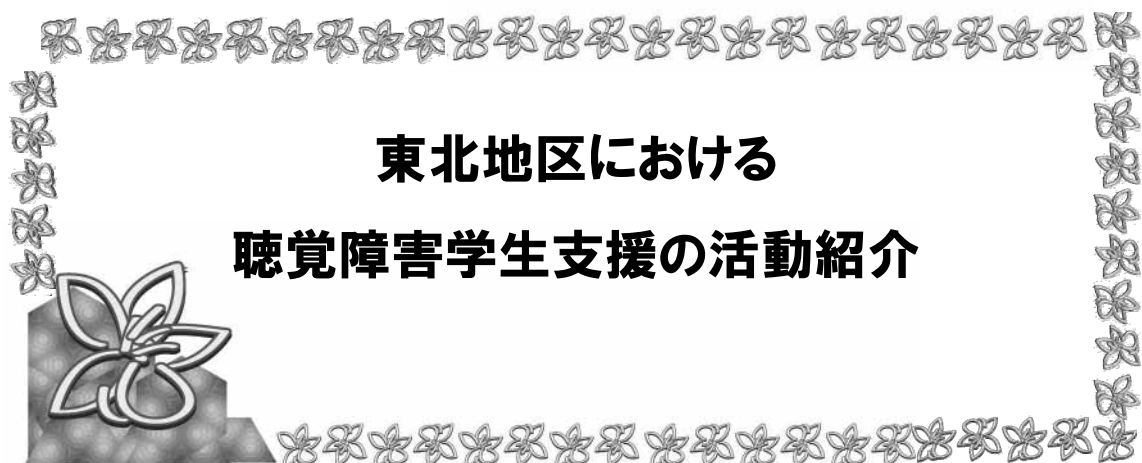
2階にいても
1階にいる人と
手話での話か
できます！

〒305-8520 茨城県つくば市天久保 4-3-15
TEL:029-852-2931(代表) FAX:029-858-9312
<http://www.tsukuba-tech.ac.jp/>



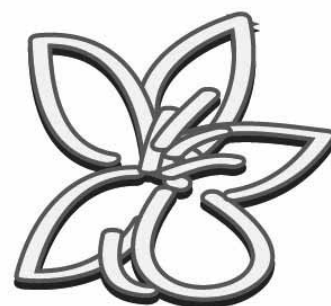
国立大学法人

筑波技術大学



東北地区における 聴覚障害学生支援の活動紹介

- 秋田県立大学
- 東北福祉大学
- 東北学院大学
- 尚絅学院大学
- 仙台大学
- 岩手県立大学



秋田県立大学

●支援組織名称 聴覚障がい学生支援コーディネーターチーム

●スタッフ 教職員 4 名、学生サポート隊 2 2 名

聴覚障害学生	1 名	学部生	
		院生	
視覚障害学生	0 名		
肢体障害学生	0 名		

設置形態	公立大学法人
学生数	1, 886 人（学部生 1695 人、院生 191 人）
所在地	〒010-0195 秋田県秋田市新城中野字 街道端西 2 4 1-4 3 8

学内支援組織図

- ・学部長、学科長
- ・所属学科教員（3 名）
- ・事務職員（1 名）

ノートテイク

提供しているサービス	ノートテイク （学生サポート隊及び派遣）		
利用者数	1 名	学部生	1 名
		院生	0 名
ノートテイク数	30 名（内、派遣要約筆記者 8 名）		
サービス提供時間数	週 16 コマ		
報酬および経費	700～800 円／時間 （派遣は 1, 000 円／時間）		
募集方法	学内に募集ポスターを掲示、研究室教員や先輩学生からの口コミ		
コーディネート方法	事務職員（障がい学生担当）1 名が連絡調整を担当。2 週間毎にシフト決めの会議を開き、各講義における情報保障の状況を確認し合う。		
養成方法	新人ノートテイク養成講座 7 時間（3. 5h×2 回）を年 2 回開催。外部講師および学内コーディネーター教員が担当する。		
本学ノートテイクの特徴	理系特有の実験、園場実習、野外観察や教職系集中講義においても、TA、学生サポート隊と派遣要約筆記者が、講義支援を行う。		

その他の支援

手話通訳	入学式、オリエンテーション、防犯講習会等及び利用学生の希望がある場合は、秋田県健康福祉部障害福祉課へ手話通訳者の派遣を依頼する。
DVD の字幕作成	講義内で DVD 等の映像を使用する場合、事前に学生サポート隊または事務職員が文字起こしをし、IPTalk を使用して字幕放映する。
発表会、講演会等での情報保障	聴覚障がい学生用のパソコンを一台設置し、発表者等が作成したシナリオを映しだし、発表内容をリアルタイムで伝える。

Check!

理系大学としての
聴覚障がい学生支援方法を確立する

理系大学における講義保障

理系大学では通常講義の他、実験、園場実習、野外観察等、特殊な講義が開講します。

実験は週 1～2 日、2 コマ～4 コマ開講し、薬品の調合や火を扱う実験など、危険な作業が伴います。また、園場実習は稲や野菜の栽培が中心で、鍬を使った作業など、実験同様、危険な作業が多くなります。TA やノートテイクは教員の指示等をテイクする他、周囲の状況を伝えたり、危険な行為への注意なども行います。

本学の制度として、1、2 年次から専門的な実験を行うことができる「学生自主研究制度」があります。当該学生はこの制度を利用し、日々研究に励んでいます。担当教員とのやり取りは筆談が中心です。

3、4 年次における研究室配属、卒業研究に向けての支援方法を検討することが、本学の現在の課題です。

サービス向上を目指して

- ・講義資料の工夫
（ノートテイク用に余白の多い資料を用意する等）
- ・学生サポート隊の養成
- ・研究室配属後の情報保障
- ・聴覚障がい学生に対するケアの模索

参考資料

「大学ノートテイク支援ハンドブック」人間社
日本聴覚障害学生高等教育支援ネットワーク情報保障評価事業グループ編著 2007 年

問い合わせ先

秋田県立大学 教育本部学生チーム スタッフ 石田
E-mail : sayuri@akita-pu.ac.jp TEL : 018-872-1500

東北福祉大学

●支援組織名称 学生生活支援センター 障がい学生支援室

●スタッフ 教員1名、職員（常勤1名、非常勤1名）

聴覚障害学生	8名	学部生	8名
視覚障害学生	1名	院生	0名
肢体障害学生	11名		

設置形態	私立大学
学生数	約6,000人（通学）
所在地	〒981-8522 宮城県仙台市青葉区国見1-8-1

学内支援組織図

学生生活支援センターの一組織

ノートテイク・パソコン要約筆記

提供しているサービス	■ノートテイク■パソコン要約筆記		
利用者数	6名	学部生	6名
		院生	0名
ノートテイク数	150名		
サービス提供時間数	週65コマ（NT 64コマ/PC1コマ）		
報酬および経費	なし		
募集方法	年度始めのガイダンスでPR、ポスター掲示、ビラ配布		
コーディネート方法	障がい学生支援室と学生団体「テイク☆テイク」が中心となってテイク派遣調整しています。		
養成方法	ノートテイク養成講習会 80分を実施（講師：障がい学生支援室コーディネーター）。聴覚障害疑似体験も導入。		
本学ノートテイク・パソコン要約筆記の特徴	本学のノートテイクは、通学課程に在籍するボランティア学生によって行われております。通信教育部に在籍する聴覚障がい学生へのノートテイクも行っています。		

その他の支援

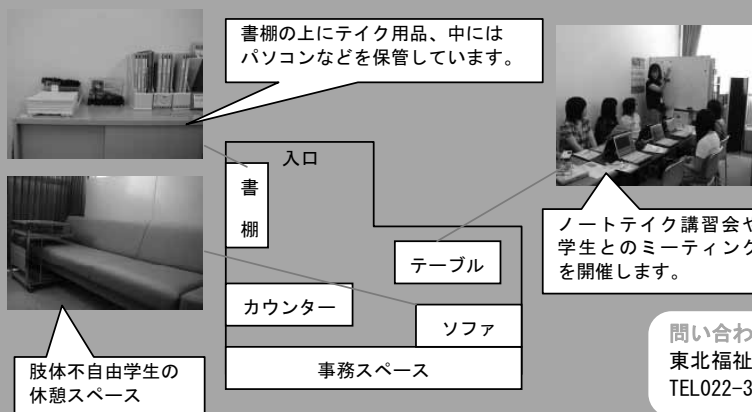
入学式での手話通訳者設置	入学式ではパソコン要約筆記を配置、卒業式においては、対象学生の希望に応じて手話通訳者、パソコン要約筆記を配置します。
実習・課外授業での情報保障	利用学生の希望があれば、手話通訳を外部団体に派遣依頼をします。費用は大学が負担。
補聴援助機器の貸し出し	「磁気補聴システム」マイクを設置している教室には配線を完備しています。 「赤外線補聴システム」マイクを設置していない教室、話者が複数の演習形式の授業などで使用します。
聴覚障害疑似体験	聴覚障がい者の聞こえ方を体験することで、聴覚障害に対する理解・啓発を図っています。
他の障がい学生との交流	肢体不自由、視覚障がい学生と連携したサポーター募集活動の実施、交流イベントの開催、就職に関する勉強会の実施など、障害種別を越えた交流を図っています。

Check!

さすが、福祉大生！
学生のパワーがすごい！

障がい学生支援室の様子

今年4月にリニューアルした支援室の様子をご紹介します♪



サービス向上を目指して

今年の4月に大規模な組織再編があり、それに伴い障がい学生支援室は移転しました。これまで他部署と共有の部屋でしたが、単独の部屋になったことで、ノートテイク講習会の開催やミーティングの回数も増え、肢体不自由学生の休憩スペースも確保され、これまでよりも学生が来やすくなりました。学生たちの活動が盛んな本学、私たち支援室スタッフは学生たちの自主的な活動をサポートしていけるような支援体制を目指しています。

問い合わせ先

東北福祉大学 学生生活支援センター 障がい学生支援室
TEL022-301-1291 E-mail:support@tfu-mail.tfu.ac.jp

東北学院大学

●支援組織名称 学生部 学生課

●スタッフ 教職員 5 名、学生スタッフ 7 名、

社会人スタッフ 10 名

聴覚障害学生	3 名 (全員学部生)
--------	-------------

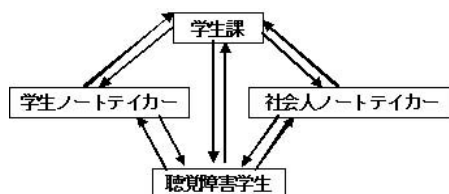
設置形態	私立大学
------	------

学生数	12,287 人
-----	----------

所在地	〒980-8511
-----	-----------

	宮城県仙台市青葉区土樋一丁目 3-1
--	--------------------

学内支援組織図



ノートテイク・パソコン要約筆記

提供しているサービス	ノートテイク		
利用者数	3 名	学部生	3 名
ノートテイク数	社会人ノートテイク 10 名 学生ノートテイク 7 名		
サービス提供時間数	1 人当たり週 5 コマ		
報酬および経費	社会人ノートテイクのみ 1 コマ 1,500 円 + 交通費実費を支給 学生ノートテイクは無償ボランティア		
募集方法	・学内の掲示板への掲示 ・パンフレットの配布		
コーディネート方法	経験豊富な社会人ノートテイクと 学生ノートテイクのペアを組み授 業の支援を行っている。		
養成方法	初めの頃は経験豊富な社会人ノート テイクに講習会をしていただきま したが、現在は学生の中でも経験 2 年ほどの学生に講師をしていただ き、基本と応用の部分で 2 回の講習 会の後、実際に授業支援に入ってお ります。		
本学ノートテイク	社会人ノートテイクと学生ノート テイクとの連携を通して授業支援 を行っています。		

その他の支援

聴覚機器との併用

聴覚障害学生の受講全科目に対して
担任の先生の了解の下、FM聴覚機器
を使用しております。

Check!

社会人ノートテイクも学生と共に
活躍！

トピック

今年度は初めての試みとして、共生社会経済学科の
授業の一環として「ノートテイクとは？」を開催し
ました。社会人ノートテイクを講師として行い、
好評を博しました。

サービス向上を目指して

社会人ノートテイクと学生ノートテイクの緊密
な連携を通していくことと、将来的には学生の「ノ
ートテイクサークル」（課外活動）として独立してい
ければと思っています。

問い合わせ先

学生部学生課 担当：千田祝

TEL：022-264-6479 FAX：022-264-6473

尚絅学院大学

●支援組織名称 尚絅学院大学聴覚障害学生支援委員会

●スタッフ 教員数名、職員2名、

聴覚障害学生	2名（在学時）	学部生	2名
		院生	0名
視覚障害学生	0名		
肢体障害学生	2名（現在は1名）		

ノートテイク・パソコン要約筆記

提供しているサービス	■ノートテイクパソコン要約筆記		
利用者数	2名	学部生	2名
		院生	0名
ノートテイク数	10～15名（NT 10～15名）		
サービス提供時間数	週4～16コマ（NTのみ）		
報酬および経費	2000円/時間（交通費＋派遣費）		
募集方法	掲示板に募集ポスターを掲示。授業中にも呼びかけた。NTが知人に呼びかけ、学内担当教員に知らせ登録。途中からメール網での募集も活用した。		
コーディネート方法	学科の教員が連絡調整係りを担当。同時に委員会スタッフは情報を共有し、不測の事態に対応。		
養成方法	NT養成講座を前期と後期に実施（学外講師）。経験の浅いNT希望者には、実際テイク場面を見学してもらう。		
本学ノートテイクの特徴	学生から「顔の見える人にテイクしてもらいたい」という希望があり、学生とNT、学内支援者との交流の場を設けた。座席の指定など、常々きめ細やかな対応を心がけた。		

設置形態	私立大学
学生数	1,763人
所在地	〒981-1295 宮城県名取市ゆりが丘4-10-1

学内支援組織図（現在、障害学生支援委員会）

学長

副学長（総務担当）

学生生活課

学科担当教員（当該学生の所属する学科教員）

その他の支援

入学式での手話通訳者設置	2名のNTを配置した。卒業式も同様。
肢体不自由学生への支援	松葉杖使用の学生から、通学手段の確保を求められ、可能な限り車での送迎を援助した。また、学生出入り口はすべて階段を利用しないといけなかったため、職員が利用している通用口を開放した。さらに、車椅子使用の学生が入学したときには、トイレをその学生が良く使用するフロアに設置したり、バス停から建物の入り口に至るまでの道のすべてを段差がないように作り直した。こうした活動がスムーズに進められるようになったのは、聴覚障害学生支援活動を展開できたことに起因していると思っている。

Check!

専従職員による質の高い保障！

NT 連絡会

全く知識のないところからこの活動を始めたので、まずは学生の要望を聞くこと、学外NTの経験談を尊重すること、情報保障センターの協力を得るなどを試みた。「顔の見える人にNTを」という希望を尊重し、週1回の連絡会を設けた。当該学生、学内外のNT、学内の担当者と約10名ほど集まった。この集まりを基盤として、学生NTの卒業を祝う会を行ったり、後輩の肢体不自由の学生たちのチャレンジド・サポートチーム作成に協力するなどの活動へと広がっていった。

NT 卒業生を送る会！！

2006年2月6日(月) 学生会館内

卒業おめでとう！先輩、有難う！

サービス向上を目指して

障害学生の自己申告に応じて支援体制を展開させているが、実際に支援を必要としていても自分から声をあげられずにいる学生への配慮・支援の申し出について、しばしば気になりながらも実行できずにいることが多い。ことに、発達障害があると思われる学生への具体的な対応の検討などが考えられなければならない。

問い合わせ先

尚絅学院大学 人間心理学科 荒川研究室
e-mail arakawa@shokei.ac.jp

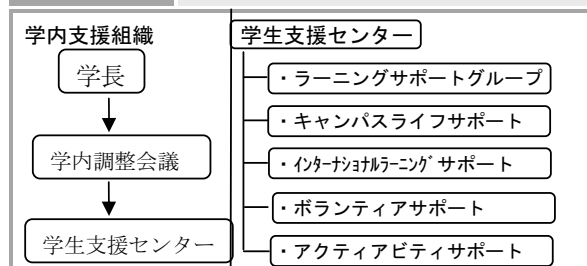
仙台大学

●支援組織名称 仙台大学学生支援センター

●スタッフ 職員 1 名、学生スタッフ 27 名、学外 3 名

聴覚障害学生	1 名
視覚障害学生	0 名
肢体障害学生	1 名

設置形態	私立大学（学校法人朴沢学園仙台大学）
学生数	2246 人（学部生 2,246 名、院生 36 名）
所在地	〒989-1693 宮城県柴田郡柴田町船岡南 2-2-18



ノートテイク・パソコン要約筆記

提供しているサービス	□ノートテイク		
利用者数	1 名	学部生	1 名
		院生	0 名
ノートテイク数	30 名（NT30 名／学生 26 名・院生 1 名・学外部 3 名）		
サービス提供時間数	2010 年度前後期週 26 コマ		
報酬および経費	1000 円／時間		
募集方法	掲示板および学内にノートテイク募集ポスターを掲示。随時呼びかけ。		
コーディネート方法	ラーニングサポートグループの障害学生支援担当職員がコーディネーターとして障害学生およびノートテイクとの連絡調整を担当。		
養成方法	学外から講師を招いての講習会とノートテイクだけの自主勉強会を前期・後期で実施している。		
本学ノートテイク・パソコン要約筆記の特徴	障害学生の授業時間に合わせ、学生が空き時間を利用して積極的に活動している。また、大学近隣の学外者ボランティアの方々からも協力を得て活動している。ボランティア単位認定。		

その他の支援

入学式・卒業式でのパソコン要約筆記	「文字の都 仙台」に要約筆記を依頼。

Check!

学生同士、積極的にコミュニケーションをしています。

活動の様子

現在、仙台大学には 1 名の聴覚障害学生がいます。2010 年度の障害学生の講義の時間数は前後期 26 コマでその時間に合わせ 30 名のノートテイクが空き時間を利用してノートテイクを行っています。障害学生と常にコミュニケーションをとって楽しく活動しています。

サービス向上を目指して

今後の課題として、講習会や自主勉強会の回数を増やしノートテイク内での差をなくすこと。

問い合わせ先

仙台大学学生支援センター 中山美穂
TEL 0224-55-1207

岩手県立大学

● 支援組織名称

特別な支援を必要とする学生のための連絡調整会議
特別な支援を必要とする学生のための担当者会議

● スタッフ 各学部担当教員、教務グループ担当者

聴覚障害学生	2名
視覚障害学生	
肢体障害学生	1名

設置形態	公立大学法人岩手県立大学
学生数	2,580人（うち学部生1,961人、院生195人、短大生424人）
所在地	〒020-0193 岩手県岩手郡滝沢村滝沢字菓子152-52

学内支援組織図

【窓口】教育研究支援室教務グループ

● 連絡調整会議構成員

教育研究支援本部長、関係本部副本部長（3）、宮古短大部学生部長、共通教育センター長、当該学部教務委員長、学生委員長、担当教員、関係室長（3）

● 担当者会議構成員

教育研究支援室長、教務委員、学生委員、担当教員、事務局担当者（教務グループ、学生支援グループ、健康サポートセンター、企画室）

※いずれの会議も必要に応じて構成員が増減する

FM 送受信機の貸し出し

提供しているサービス	FM 送受信機の貸し出し		
利用者数	1名	学部生	1名
		院生	
経費	購入は大学の予算 機器に使用する電池は学生個人負担		
方法	大学で FM 送受信機を購入し、学生へ貸し出しを行っている。		
貸し出しまでの流れ	本学教員（専門家）のアドバイスに基づき、学生本人から FM 送受信機使用の要望を確認後、当該機器を購入し、貸し出ししている。		
支援	使用に際しては、送信機の配置について教員の協力が必要となるため、事務局において授業担当教員へ説明し、当該機器の利用に理解を求めている。		

その他の支援

その他の支援

英語の授業に際し、聴覚障がい教育を専門に学んだ教員を非常勤講師として招き、講義を行っている。また、第二外国語については、次年度の開講に向けて現在専門家を調査中である。

支援体制の向上を目指して

本学では、今年度（平成 22 年度）「特別な支援を必要とする学生のための連絡調整会議」及び「特別な支援を必要とする学生のための担当者会議」を設置し、全学的な支援体制のもと、身体的障がいや発達障がいなど、特別な支援を必要とする学生に対する支援に取り組み始めたところである。

「連絡調整会議」は、学生の支援体制や内容を協議し、組織間の情報共有に関することを所掌し、「担当者会議」は、学生への支援内容の検討及び実施など具体的な支援に関することを所掌することとしている。

今後も支援を必要とする学生が増えることが予想されることから、ひとつひとつの事例を積み重ねながら、さらなる支援体制の向上を目指している。

問い合わせ先

教育研究支援室 教務グループ 主事 藤根 卓也
Tel: 019-694-2012
mail: f-takuya@ipu-office.iwate-pu.ac.jp



▲ 陈 陈 陈 陈 陈 陈 陈 陈 陈

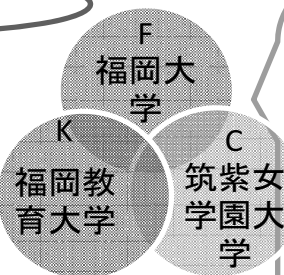
[illegible]

**聴覚障害学生支援に関する
実践事例コンテスト
発表内容紹介**



FKCfriends

2010年合宿



筑紫女学園主体の勉強会に福岡教育大学と福岡大学が参加したことがきっかけで、情報保障に関わる活動を始めようとなり、3大学の聴覚障害学生と情報保障をサポートする学生で作られた団体(2009年3月結成)
聴覚障害学生・・・6名
健常学生・・・47名
(2010年現在)

基礎

•FKCの基盤を作る

人数

•各大学のテイクの人数を増やす

九州

•九州全体の大学に情報保障を広め、理解してもらえるようにする

これからの課題

- ◆スキルアップ
- ◆他大学への呼びかけ

活動内容

・合宿
情報保障の意見交換会、字幕や文字起こし対策について、聴覚障害学生とテイクのそれぞれの声、交流会など

・研修会

各大学の活動報告、聴覚障害やテイクについての勉強、ノートテイク養成講座の体験、交流会など

2010年9月の合宿

新たにFKCfriendsに加入したメンバーも参加し、字幕・文字起こし対策について話し合ったり、テイク同士や聴覚障がい学生同士でのディスカッション、今後の活動予定を決めたり...とプログラムは盛り沢山!!!合宿を通してみんなも仲良しに★



字幕・文字起こし対策について話し合い中

PCテイクによる
情報保障



今までの活動の成果

各大学において、学内の先生や学生の理解が深まり、テイクをしやすい環境になった

福岡大学:学内へのノートテイク活動の呼びかけの場が盛んになった

福岡教育大学:支援室が出来、器具が増えた

筑紫女学園大学:学生課に懸けあってテイクに対する謝金を上げるようになった

問い合わせ先

福岡大学	小林 久晃	sm081001@cis.fukuoka-u.ac.jp
福岡教育大学	岩崎 礼佳	s214104@fukuoka-edu.ac.jp
筑紫女学園大学	新留 和恵	up0815168@chikushi-u.ac.jp
太田 富雄	tomiohta@fukuoka-edu.ac.jp	

国立大学法人 愛媛大学

愛媛大学 支援体系図

学生組織

Student Campus Volunteer

SCVは、「自分たちのために考えそして行動する、『行動派』ボランティア集団です。

その1つに障がい学生支援ボランティアとして、CBPが設立されています。

支援学生養成講義

- ・障がい理解と情報保障
- ・障害者支援ボランティア講座
- ・ことばの世界（手話）

推進室開講養成講座

- ・ノートテイク基礎講座
- ・PCノートテイク基礎講座

学生・教職員向け講座

- ・手話基礎講座
- ・バリアフリー推進室勉強会
- ・SPOD

愛媛大学で行われる、
FD・SDプログラム。
障がい学生支援の分
科会を担当している。

CBP（Campus Barrier-free Promotor）

- ・障がい学生及び支援学生の交流
- ・バリアフリー調査
- ・ボランティア意見交換会の開催
- ・基礎講座3の開講
- ・学生代表者会議への参加

「心」と「心」を結ぶ支援

利用学生も支援学生もそれぞれの成長を目指し、
教職員一同、応援しています！

大学組織

バリアフリー推進室

1. 学生相談、支援業務
 - ・カウンセリング エンパワメント支援
2. 支援学生養成業務
3. コーディネート業務
 - ・支援学生コーディネート
 - ・支援センターミーティングでの情報共有
 - ・大学内各機関との連携

学生支援課

学生支援センター
アカデミックアドバイザー
各学部担当者
総合健康センター
障害者修学支援委員会

問い合わせ先

愛媛大学教育学生支援部バリアフリー推進室 〒791-8577 松山市 文京町3番地
TEL：089-927-8114 FAX：089-927-9171 e-mail bfree@stu.ehime-u.ac.jp

情報保障者支援 ～情報保障者支援システムの活用～

2010年度、本学には2名の聴覚障がい学生が在籍しており、学外派遣による手話通訳と、「情報保障支援学生団体 てくてく」によるパソコンノートテイクおよびノートテイクを中心に情報保障活動を行っている。「てくてく」の活動においては、情報保障者支援システムを利用して、円滑な連絡をサポートし、各種情報を一元管理することでコーディネーターの負担を軽減している。また、パソコンノートテイク練習サイトを現在構築しており、Webサイト上でパソコンノートテイクの練習を行うことで、情報保障の質の向上を目指している。

情報保障者支援システム

このシステムは、数年前から利用している「出欠連絡ツール」を拡張したシステムで、支援者・聴覚障がい学生は、出欠情報だけでなく、授業関連の共有すべき情報などを管理サーバに携帯端末からアクセスする事で登録を行い、情報保障活動をサポートしている。

・聴覚障がい学生欠席連絡・休講連絡

聴覚障がい学生が講義を欠席する場合や、講義が休講になった場合、欠席・休講連絡を行うと、関係する支援者、コーディネーターにメールが配信される。

・支援者欠席連絡・代理募集

支援者が何らかの理由で出席できなくなってしまう場合、欠席連絡を行うと自動的にその講義の関係者（聴覚障がい学生・支援者のパートナー）およびコーディネーターにその旨の連絡のメールが配信されると同時に、交代を募集するメールが全支援者に配信される。

・支援者シフト調整支援

支援者は個人ページにおいて、担当可能時間や保障スキル等の支援情報を登録する。

また、上記ツールにて各支援者ごとの経験量や誰とパートナーを組んだことがあるかなどを蓄積しており、これらの情報を併せて、最適な支援者の配置をアシストし、コーディネーターの負担を軽減している。

・関係者間連絡支援

支援者が担当する講義の関係者（聴覚障がい学生・支援者のパートナー）に連絡をしたい場合、連絡を行いたい講義を選択し、メッセージを入力すると、そのメッセージが関係者にメール配信される。これにより、個人のメールアドレスを公開することなく連絡を取ることができる。

・情報保障記録の蓄積

毎回の講義ごとにそこでの情報保障支援の記録や、講義担当教員などへの要望を入力できるページを設けている。ここに入力した内容は、コーディネーターおよび支援者が閲覧可能となっており、支援者間の引き継ぎなどに役立っている。

出席報告ページ

個人ページ

パソコンノートテイク練習サイト

パソコンタイカーの養成（特に、新規登録者の養成用）の為にWebサイトを現在構築している。いままでは、支援者が集まって練習を行ってきたが、登録している支援者が70名を超えた事もあり、個人個人の練習の必要性が高まってきた。そこで、次のようなツールを中心とした練習サイトの構築を現在行っている。

・連携入力疑似体験ツール

初めてパソコンノートテイクを行う際に最も戸惑うのが連携入力である。そこで、実際に連携して入力した記録を一方のみ再現することで、疑似的に連携入力の体験ができるようにする。これにより、事前にイメージをつかみ、戸惑いなく連携入力を行うことができることを期待している。

・音声タイピング練習ツール

通常タイピングの練習には、用意した原稿を見ながら入力するという方法が一般的である。しかし、情報保障を経験した支援者からは、「音声を聞きながら入力するのは、原稿を見ながら入力するのとは全く異なり、慣れるのが大変だった」という声が聞かれた。そこで、速度の異なる音声ファイルを用意し、音声を聞きながらタイピングの練習を行うことができるようにする。

課題

更に汎用性を持たせるための各種設定項目の検討や、フレームワークを利用した再構築を行っていきたい。

問い合わせ先

愛知教育大学 情報保障支援学生団体「てくてく」 連絡先(e-mail: tekuteku@t.ics.aichi-edu.ac.jp)

京都精華大学



★「障がい学生支援室」は、障害のある学生への授業支援や支援学生の養成を行い、障がい学生や支援学生の相談、またはボランティア活動などに関する相談を受けています。
 この他に、教員や事務局の各課と連携し、障害理解や啓発活動に取り組んでいます。

★主な授業支援内容

ノートテイク（要約筆記）ビデオ字幕制作・ビデオ音声の文字起こし・パソコンテイク・ゼミの手話通訳・レジュメの点訳・対面朗読など。

★各種講習会・・・ノートテイク・パソコンテイク・ビデオ字幕制作など。

★手話の会・・・週2回昼休み、簡単な手話で楽しみながら会話をし、コミュニケーションの輪を広げています。

★ノートテイク（要約筆記通訳者）とは

聴こえない学生の両脇に座り、耳の代わりとなって、授業の内容はもちろん、その場で聞こえている音のすべて（教室内の雑音・・・チャイムの音・携帯の着信音など）を交代で文字にして伝える筆記通訳のことです。
 ノートテイクとは「速く」「正しく」「読みやすく」書き伝える技術を必要とします。



問い合わせ先

京都精華大学 障がい学生支援室

連絡先：TEL 075-702-5268 FAX 075-702-5390 e-mail: chall@kyoto-seika.ac.jp

講義「心のバリアフリーをめざして」

概要 (2010.08.31~09.04 受講者41名)

- ・1日3コマ5日間の夏季集中講義 (2単位)
- ・大学コンソーシアム京都の単位互換制度により、他大学に開放 (立命館大学、京都女子大学、京都薬科大学など)

ともに
学ぶ

知る
meet



出会う
face

多彩なゲスト
スピーカー

大学教授の他、実際に福祉の現場で働いている方や障害とともに生きている方など9人の教授陣を迎えた。

向き合う
experience

学内で
障害体験

2日目には同志社大学新町キャンパスにて、車イス・アイマスク・盲ろう体験を行ない、サポートするだけでなく、受ける側の気持ちに出会い理解を深めた。

つながる
share

豊富な
ディスカッション

講義スタイルだけでなく、連日ディスカッションを実施。お互いの気づき・思い・発見を言葉に出すことで刺激し合った。

越える
realize

チャレンジド
キャンプとの
連動

正課の授業と課外活動が連動し、心のバリアフリー参加者に対して、キャンプ参加を呼びかけた。心のバリアフリーの講義を通じて体系的に学んだ上でキャンプに参加したことにより、より深い洞察を得ることができた。



体系的に学ぶ
知らなかった世界に触れる

【お問合せ先】同志社大学 学生支援センター 障がい学生支援室
E-mail: jt-care@mail.doshisha.ac.jp

Challengedキャンプin能登千里浜

ともに
考える

概要 (2010.09.09~09.11 参加者26名)

- ・2泊3日のキャンプ@能登千里浜休暇村
- ・障害体験をし「気づき」を仲間と共有することで、理解を深める。そして、それぞれが心のバリアと向き合い、心身ともに成長することを目的としている。

学生スタッフ の導入

今回、4名の学生スタッフを導入。
スムーズな運営が可能となった。また、学生同士ならではの意見交換を活発にし、キャンプ全体を盛り上げただけでなく、スタッフ自身の成長も見られた。



釣れる
かな？

知る

わかる



変わる
変える



何色
だろう？

集合！



新しい仲間との
出会い...
カッコー人になろう！

一大学と学生の特徴を活かした支援へー

日本社会事業大学 障がい学生支援組織 CSSO

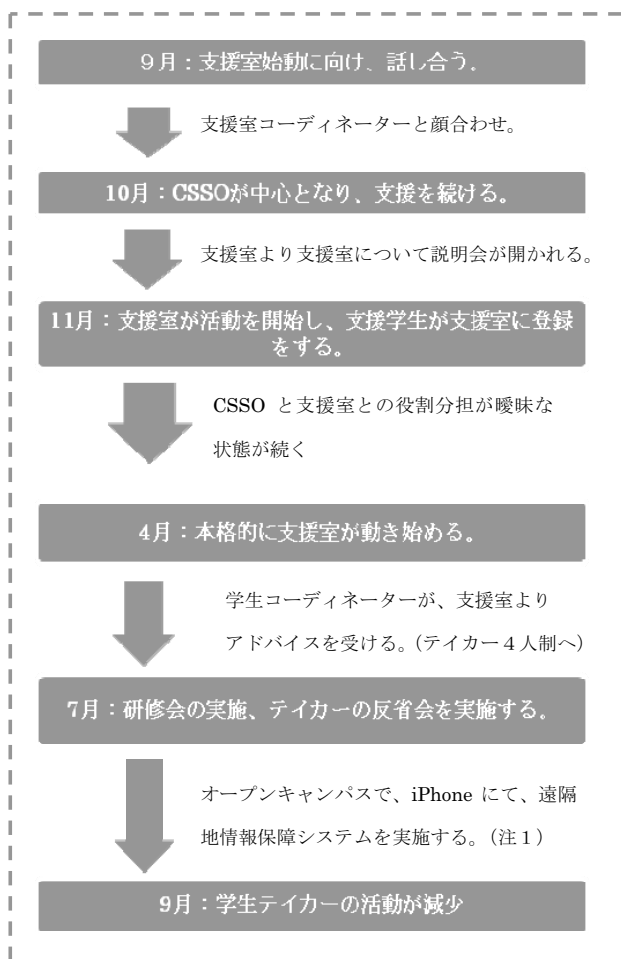
<はじめに>

2005年6月に障がい学生支援組織 CSSO の活動が開始した。4年後、日本財団の助成により、聴覚障がい学生支援プロジェクト室が設立。しかし、共同で支援を行っていくうえで検討していかなければならない課題が多く残っているのが、現状である。本発表ではこれらの課題も含め、本学における情報保障支援について、活動を報告していきたいと思う。

<所属人数>

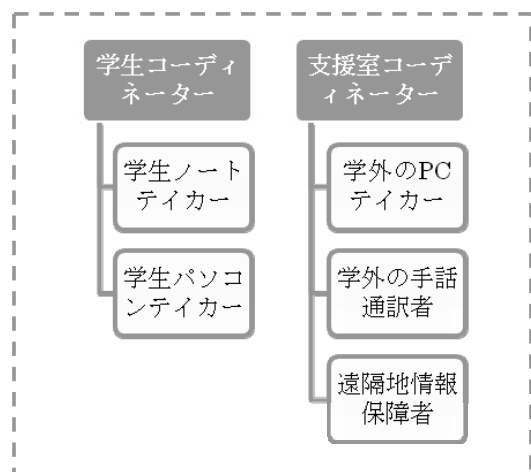
大学全体の学生数：約 900 人 運営スタッフ：約 45 人
聴覚障がい学生：1 名 支援サポーター：25 人

設立までの流れ



注1：国立大学法人筑波技術大学を代表とした、『携帯電話を使用した「モバイル型遠隔情報保障システム」導入実験プロジェクト』のモニター校として、実施しました。

役割分担について



今後の課題

- ・ 支援室との情報共有
- ・ 利用学生との継続的な関わり
- ・ 学生ノートテイカーのスキル維持、向上、継承
- ・ 利用学生卒業後の活動
- ・ 障がい学生支援の啓発活動の実施

所在地：〒204-8555 東京都清瀬市竹丘3丁目1番地30号

連絡先：日本社会事業大学 障がい学生支援組織 CSSO (jcs@csso.plamail.jp)

設立年：2005年6月

千葉大学 ノートテイク会

ノートテイク利用者の減少→ノートテイク会にとって良い/悪い？

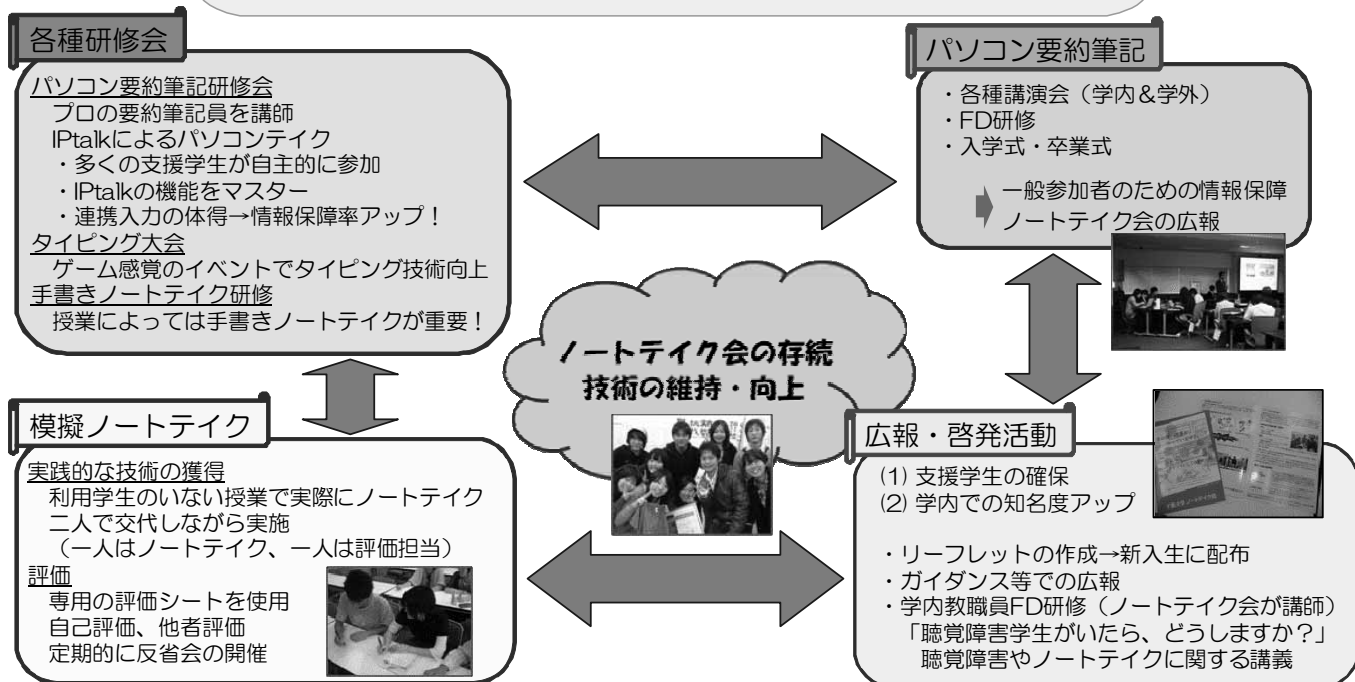
現在、登録支援学生35名、コーディネーター1名
利用学生1名、授業1コマ/週、ノートテイク2名/週
※週1コマだと自分の講義がある学生は担当できない。

- ・ノートテイクの意志があるのに実践できない！
- ・ノートテイク技術の維持・向上が困難
- ・支援学生のモチベーション低下

どんな大学にも
起こりうる問題

利用者数が少なくても活動を活発にする工夫が必要

新たな取り組みの実現



ノートテイク会が目指すもの

ノートテイク会の活動維持

利用者の人数は毎年変動→人数が増えたときにも対応可能な体制

さまざまな情報保障手法

授業内容に応じて、手書きノートテイク、PCノートテイクで柔軟に対応
情報保障率の向上

情報保障率を上げるため、研修会、練習会などの実施

（現状：手書きで2～3割、パソコンでも5割程度）

常に万全の状態ですノートテイクができるよう

ノートテイク会の存続、技術の向上に努めていきます！

問い合わせ先

千葉大学ノートテイク会 (info@ntkai.skr.jp)

代表：久保理恵、副代表：平出晏莉



マインドマップを用いた図解要約による情報保障

マインドマップとは

マインドマップとは、英国のTony Buzan氏が1970年代に脳思考方法である放射的思考から発想を得て提唱された図解表現技法のひとつです。

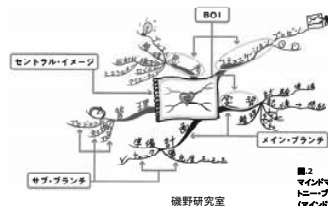


図2 マインドマップの作成
トニー・ブザン著、近藤典孝訳
(マインドマップ図解)

磯野研究室

1

マインドマップによる情報保障

◆マインドマップと呼ばれる図解表現技法を応用し、講義内容の要点やキーワードで図解要約した。

◆従来のPCノートテイクとマインドマップによる図解要約手法を併用することにより、講義内容が理解しやすくなり、情報保障の充実が期待される。

磯野研究室

2

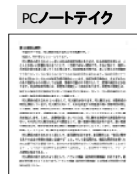
マインドマップによる図解要約の例



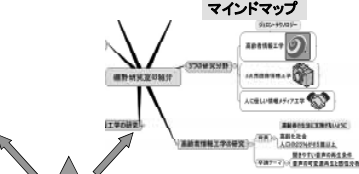
磯野研究室

3

PCノートテイクとマインドマップの併用



文字情報のみに
よる情報保障



要点やキーワード
による図解要約

磯野研究室

4

マインドマップによる講義支援の様子

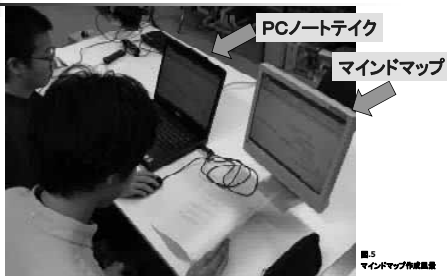


図5 マインドマップ作成の様子

磯野研究室

5

マインドマップによる情報保障の特徴

<長所>

- 講義内容の全体を把握できる
- 図解になっており見易い
- 作業疲労が少ないため1人でも作成できる
- 人件費の運用コストが安い
- 高いスキルを必要としない
- 写真や図表、数式も記述可能

<短所>

- 講義内容が文章化されない
- 要点やキーワード図解のため詳細内容が伝わりにくい
- 各個人によって作成されるマインドマップが異なる



PCノートテイクとの併用が望ましい

磯野研究室

6

問い合わせ先

日本工業大学 工学部 情報工学科 磯野春雄

Mail: isono@nit.ac.jp

URL: <http://leo.nit.ac.jp/~isono/>

「福祉ビジネス論」によるノートテイクの裾野の拡大

遠山正朗・小林充明・照木篤子

要旨: 学部・学科の専攻内容や規模などに関わらず、安定的にノートテイクを学部・学科内に確保することができれば、聴覚障害者の進路選択の幅が広がる。こうした理念のもと、ビジネス系を専攻している学生を対象に、ビジネスの側面から広く福祉について講義をすることを通じ、学生の視野が広がる土壌作りをしたうえで、身近に顕在的なニーズのあるノートテイクとしての技術を習得できるよう演習を行っている。それが、新設・開講している「福祉ビジネス論」である。

埼玉工業大学での実践例

福祉ビジネス論カリキュラム前半: ビジネスに関する授業概要

<ビジネスの本質> 顧客志向経営「ニーズを満たしウォンツを満足させる」→消費者の必要とするものを具現化し顧客の欲求を満たす。

<製品の実例>

・聴覚障がい者用の製品紹介



パトライト
(屋内信号装置)



Shake Awake (携
帯型振動目覚時計)



Big Time

画像: 長岡あすか氏(鳩ヶ谷市手話講習会講師)提供

・手話による「日立の樹」(歌)を紹介

<福祉ビジネス論と聴覚障がい>

大学等での講義を受講する聴覚障がい者が健聴者と同じように情報を得たいとするニーズをどのように満たし「情報保障」を行うのかという観点から健聴者が支援可能なサービスとしてのノートテイク技術を習得する。

その他の福祉製品・サービスの紹介

・コクヨ

カッター・ナイフ…右利きの人でも左利きの人でも使いやすい

ハサミ(デビタ)…手にかかる負担を軽減

超強力マグネットフック(たまフック)…落ちにくいのに外しやすい

・福祉車両…講義内ではトヨタ車(ラウム)を紹介

・パナソニック

ななめドラム式洗濯機/IH クッキング・ヒーター(色で暑いかどうかを表示)

補聴器用電池…ちぎって取りやすく捨てるときの分別が簡単

福祉ビジネス論カリキュラム後半: ノートテイクに関する授業概要

厚生省通達による
「要約筆記奉仕員養成カリキュラム」

基礎課程 32時間
応用課程 20時間

福祉ビジネス論
ノートテイク講義 3.5時間
ノートテイク実技 8.5時間

回	テーマ	講義概要
第1講	ガイダンス、講義のねらい、出欠と評価	講義のねらい「人のつながり」「聴覚障害とは」「ノートテイク技術習得」「社会資源の不足を考える機会」
	聴覚障害の基礎知識	身体障害者の内訳(内閣府調査)、音・耳の仕組み、聴覚障害の基礎知識(原因、コミュニケーション手段、障害特性と心理)
第2講	ノートテイクの基本	①情報保障の種類と特徴、聴覚障害学生の生活(映像)、大学ノートテイクとは ②書く体験(1分で何文字かける?)
	大学ノートテイクの特徴	大学ノートテイクの特徴(単位、専門性、継続性)
	ノートテイクの基本	①必要な道具、②座り方、③書き方3つのポイント、④略字、略号
第3講	効率的な書き方Ⅰ	①要約テクニック「漢語表現」②実習「ディクテーション(聞きながら書く)」
	効率的な書き方Ⅱ	①要約テクニック「短縮表現」②日本語の特徴と要約
第4講	実習①	「キーワードを聴き分ける訓練(M大学の会議)」
	実習②	一人書き「自治体受講選抜試験問題」
第5講	実習③	一人書き「自治体受講選抜試験問題」
	実習④	交代書き実践練習Ⅰ
第6講	実習⑤	交代書き実践練習Ⅱ
	倫理とマナー	①モラルと社会的責任 ②ケースワーク
第7講	実習⑥「模擬講義」	場面に応じた書き方…板書、朗読、プレゼン、ビデオ放映、ディスカッション等
	実習⑦総合演習「講義保障」	総合演習 模擬講義と課題提出「40分間」
第8講	実習⑧総合演習「講義保障」	<学内ノートテイク応募用紙の配付・説明(学生課)> 講義保証と課題提出「40分間」

学生の声

略字がこんなに
沢山あるとは知らな
かったし習った
こともなかったの
でもっと知りたい

最初は難しくて
自分には無理だと
思ったが少しずつ
慣れてきた

実際のノートテイク
の人の話が
聞けたのはとても
よかった

耳の聞こえない人は
皆手話で
話すと思っていた
全体の2割以下
とは意外だった

字が汚いし憂鬱だっ
たがこんな字でも必
要とする人がいて役
立つなら頑張りたい

要約技術の
習得は自分の勉強
にも役立つと知った

問い合わせ先

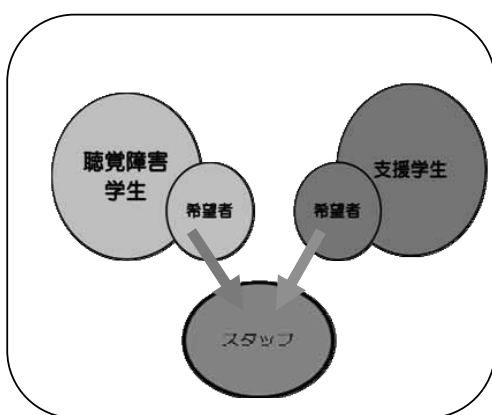
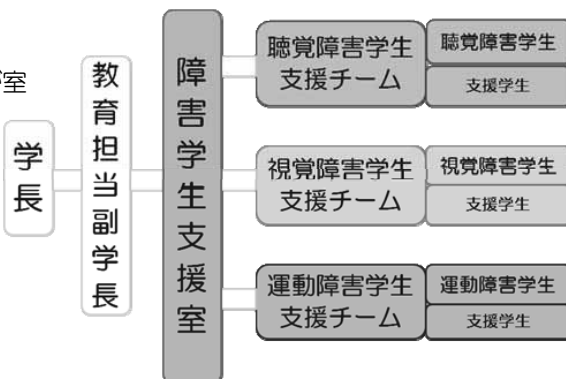
遠山正朗 masao.toyama@it-chiba.ac.jp
小林充明 kobayashi5000020281@gmail.com
照木篤子 terraa@palette.plala.or.jp

筑波大学障害学生支援室 聴覚障害学生支援チーム

筑波大学聴覚障害学生支援チームは、教育担当副学長が室長を務める筑波大学障害学生支援室の下で活動しています。

主に聴覚障害学生が受講する講義に支援者を派遣し、情報支援活動を行っています。

現場の活動は、先生方からの助言をいただきながら学生が主体となって運営しています。



聴覚障害学生 25 名(学群 18 名・大学院 7 名)

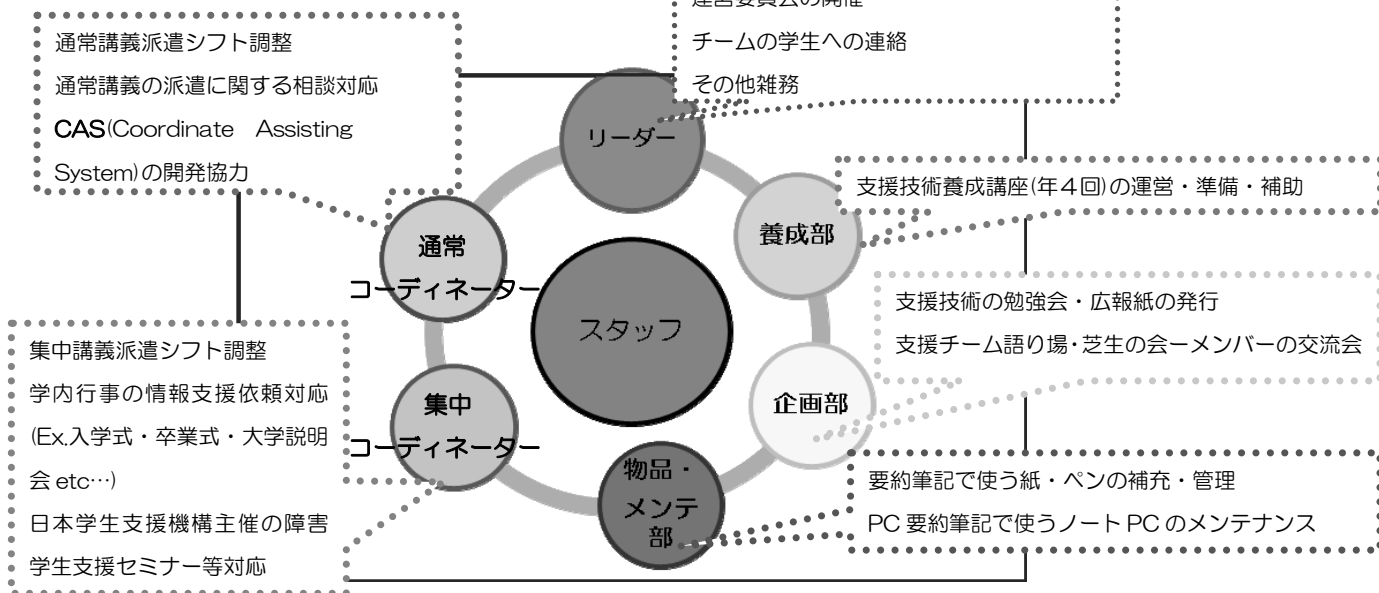
支援学生約 110 名(2010.09 現在)

⇒学群 2・3 年生の希望者

[聴覚障害学生(7 人)・支援学生(12 人)]で運営を担当

月 1 回の運営委員会で、活動報告・現状把握・改善に向けた話し合いなどを行っています。

チームの担当教員との連絡・ミーティング
障害学生支援室 (OSD) との連絡
運営委員会の開催
チームの学生への連絡
その他雑務



問い合わせ先

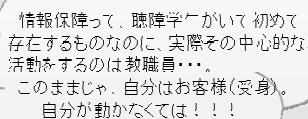
本ポスター内容についての問い合わせ hi-support@human.tsukuba.ac.jp (聴覚障害学生支援チーム)

筑波大学障害学生支援室についての問い合わせ shougai-shien@un.tsukuba.ac.jp (障害学生支援室)

群馬大学 :

自分が動けば、周囲も変わる！

～情報保障サークル「てふてふ」～



てふてふ一代目代表
森田 貴之

てふてふ二代目代表
宇智耶 崇

今後の抱負
「メーカーとの交流の輪をさらに広げるとともに、相談の機会を増やすことで、情報保障の質の向上に貢献していきたい！」
「宇賀部」

第1回目の学習会は、自分の障害のことをテーマに。ティカーも自分むさらに障害について学んで、ティカーと交流がさらに深まり、距離が近くなった。[森田]

文援室の手伝い
「ハイカー養成など」
ができて、嬉しい！
「宇賀耶」

大学生活をもっと！
そして、よりよく！！！！

支援室から依頼メール

タイピング力測定、連携入力の指導

DVD(実際の講義)による、テイク実践

実際の講義でのテイク実践

支援室に報告



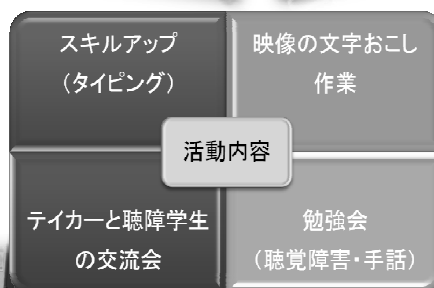
教員から映像資料拝借

支援室より、依頼のメール受諾

映像資料(複製)受取

支援室／自宅で作業

支援室に提出



実際、とても助かってます♡
支援室職員一同



共有

以前、学生テイクーとは挨拶とお礼を言うだけの関係だったが、今は楽しく交流ができています。それだけでなく、積極的にテイクの準備や片づけを手伝うようになり、自分の気持ちにも変化が表れた。

支援室と連携を持つことで、教職員に気軽に相談を持ちかけられるようになった。今までは「これは言えないな」って思うことも少なからずあったが、今は率直に感じたことを伝えている。

問い合わせ先

群馬大学社会情報学部情報社会科学科
群馬大学教育学部
群馬大学障害学生支援室

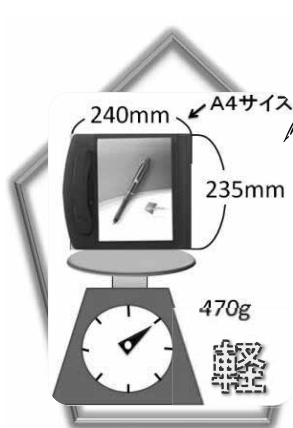
宇賀耶崇
金澤貴之

(tefutefu_gis@yahoo.co.jp)

(kanazawa@edu.gunma-u.ac.jp)

(a_dis-support@ml.gunma-u.ac.jp)

群馬大学：自分に合わせて情報保障を使いこなす～デジタルペン～



デジタルペンとは

簡速安

- ・手書き感覚で書ける
- ・使うのはレポート用紙と専用のペンのみ
- ・数式や図も手書きだから簡単に書ける
- ・パソコンとデジタルペンをケーブルでつなぐだけで完了
- ・書いたものがパソコンにリアルタイムに表示
- ・25,000円とパソコンより比較的安い

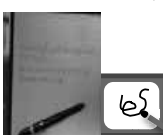
○データ

- ・「紙」と「電子データ」の両方で保存可能

○修正

- ・P Cに表示されたデータはデジタルペンで修正可能

手書き



パソコン



ゼミで活用しています！

質疑応答や、教員からの説明時に利用します（図1）

手書きのメリット

数式や図、文字をそのままの形で理解できる

周囲にも好評

他の参加者にもわかりやすい

とりのこされない

発表者自身が書くので全体の進行についていける



デジタルペン1台を発言者で相互に回して利用します（専用のテイクカーはつけない形）



図1：デジタルペンを用いたゼミでの情報保障



テイクカーの声

英語の授業でデジタルペンを使ってテイクをしています。デジタルペンで書いたものはパソコン上に表示されるため、テイクカーが利用学生を挟んで座る必要がありません。またデジタルペンは3色あるため、重要なことや後から書き足すことがある際に、色を使い分けることができ、便利です。



語学の授業にも有効です！

大きく 自分の世界が広がった！

自分の変化

さまざまなスタイルで講義へ参加する

- ・デジタルペン
- ・パソコンテイク

自分のニーズに気づく

- ・使用方法の試行錯誤
- ・周囲の人にも利益があると実感

自分を受け入れる

- ・周囲に頼れるように
- ・負い目を感じなくなった

問い合わせ先

群馬大学工学研究科博士前期課程応用化学・生物化学専攻
群馬大学教育学部障害児教育講座
群馬大学障害学生支援室

渡邊紘基

金澤貴之 (kanazawa@gunma-u.ac.jp)

(a_dis-support@m1.gunma-u.ac.jp)

群馬大学: 自分らしく生きる ～手話がもたらす世界～

手話がもたらす世界 ～同級生とのコミュニケーションから学んだこと～

4月から7月までの MY ストーリー

4月	障害児教育専攻の仲間説明
5月	1ヶ月半で手話にフル移動
6月	教育学部全体に自分の障害について説明
7月	キャンパス実習



大学生生活って
楽しい!

周囲

- ・支援室の講義 (手話やろう文化)
- ・専門教員から障害児教育専攻全員に筆談メモ配布
- ・講義「障害者文化と共生社会」 (情報保障を学ぶ)
- ・会議での先輩による手話通訳
- ・(自閉症ふれあいサークル「たんぽぽ」)

自分

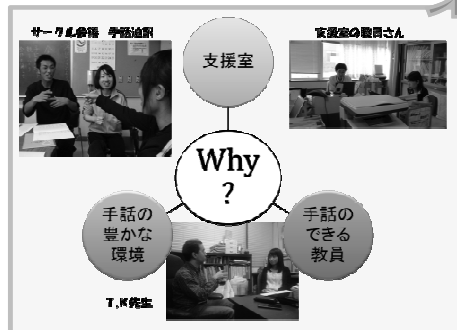
- ・障害の説明
- ・【障害の程度、接し方、注意(例:肩たたき)】
- ・教養教育の授業のコーナーとして「あやののワンポイント手話」を実施
- ・毎回10分間手話を教える一教育学部のみならず、医学部、社会情報学部の学生もいたため、障害児教育専攻の友達が通訳
- ・躊躇なく手話を活用

クラスメイト

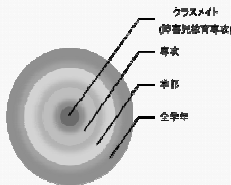
- ・手話サークル「でんでん」で地域の人々と話す
- ・障害に関するビデオや本を支援室から借りる
- ・手話を積極的に質問して勉強
- ・手話の本を自ら購入
- ・手話うた (歌詞を手話にしてみる)
- ・とっさの通訳に対応
- ・ろう学校のボランティアへの参加意欲を示す
- ・パソコンタイピング登録
- ・手話技能検定を受ける

山本綾乃、どんなひと?

小学校: 地元の小学校にインテグレーション
中学校: 母の勧めでろう学校へ
聞こえない友達と出会い、手話を獲得していく。
高校: 進学先はろう学校を選択
高2の夏、タイのろう学校に行ったことで
自分に誇りを持つようになる。
現在: 聞こえない子どもの教育に関わる仕事がしたい、群馬大学にて勉強中。



どんどん広がる理解の輪



クラスメイトの熱いVOICE



積極的に

自分に必要なものは最初からアピール!
ためらわずに手話を使おう
初めのうちに障害者の存在、特徴、必要なことなどを周囲に広げていこう

感じたこと

感謝の心を

ありがとう
同級生 先輩方 支援室の職員
理解のある教職員
群大のこれまでの支援の歴史

問い合わせ先

群馬大学教育学部障害児教育専攻 山本綾乃
群馬大学教育学部 金澤貴之
群馬大学障害学生支援室

(rd270149-3235@tbz.t-com.ne.jp)
(kanazawa@edu.gunma-u.ac.jp)
(a_dis-support@ml.gunma-u.ac.jp)

宮城教育大学 しょうがい学生支援室 聴覚しょうがい部会 学生運営スタッフ

宮城教育大学しょうがい学生支援室・聴覚しょうがい部会の学生運営スタッフは、総務・養成・反省会・広報・事務で構成されています。総務は運営スタッフのまとめ役・学生とコーディネーターのパイプ役、養成は練習会の内容を企画・実施、反省会は反省会の内容を企画・実施、広報は練習会等の写真撮影・ポスター作成、事務はペン・紙の補充をしています。

練習会

テイカー育成・スキルUP



実際の講義に合わせられるように、英語や数学など科目ごとの練習会や初心者向けの練習会を開催しています。

支援学生が参加できるように1か月のうち1週間同じ内容の練習会を開催します。反省会の内容を活かして練習会の内容を決めています。



主な活動

リンク

反省会

困ったことの相談・解決

1か月に1回開いています。聴覚障害学生と支援学生に振り返りシートを配布し、困ったことを話し合います。



前期末の反省会では、クイズ形式でテイクにおいてのモラルやルールを確認したりかき氷を食べたり、楽しく行ないました♪

情報保障を支える信頼関係

親睦会



「誰とテイクするの?」「どんな人がテイカーなの?」という不安な状態を少しでもなくしたいと思い、親睦会をひらいています!先生・コーディネーター・聴覚障害学生・支援学生がお酒を飲みつつ、テイクの話や大学生活のことなどいろんな話をしながら交流を深めています。宮城教育大学ではこうやって信頼関係を少しずつ築いています♪



私たちが学生運営スタッフです (*^_^*)



学生運営スタッフは、月に1回程度集まり、活動内容について話し合いをしています。また、上記の活動以外にもノートテイクの勧誘や説明会を行なっています。

問い合わせ先

宮城教育大学 しょうがい学生支援室 聴覚しょうがい部会 学生運営スタッフ

TEL・FAX : 022-214-3651 E-mail : Support-Coordinator@ml.miyakyo-u.ac.jp

障がい学生サポートチーム

連携

障がい学生支援室



このような取り組みをしています！

募集

新規ノートテイクー募集のための
ポスター宣伝
ビラ配り
ガイダンス・授業内

でのPR

交流・イベント

手話教室
ノートテイクー意見交換会
ノートテイクー交流会

の開催



養成

ノートテイクー養成のための
手書きノートテイク講習会
パソコンノートテイク講習会



その他

テイク☆テイク新聞発行
肢体不自由学生サークル
(ユニコミ)との連携



問い合わせ先

東北福祉大学 学生生活支援センター 障がい学生支援室
TEL022-301-1291 E-mail:support@tfu-mail.tfu.ac.jp

岩手大学 人文社会科学部 人間科学課程

音声合成による聴覚障害者のプレゼンテーション支援

聴覚障害学生が自身で発表

- 聴覚障害学生が演習系授業や研究発表会において、代読者の力を借りずに、自分自身で発表が可能となるよう、ソフトウェアの整備や運用法の工夫を行った。

1

卒業研究の発表を支援

- 名称: 岩手大学 人文社会科学部 人間科学課程 人間情報科学コース 卒業研究発表会
- 日時: 2009 年 2 月 27 日 (金)
- 場所: 岩手大学の一般教室
- 参加者:
 - 教員 6 名
 - 発表を行うコース 4 年生が本人を含めて 16 名
 - その他自由参加のコース 2・3 年生 10 名程度
 - コース 4 年生の 1 名がノートテイクを務めた

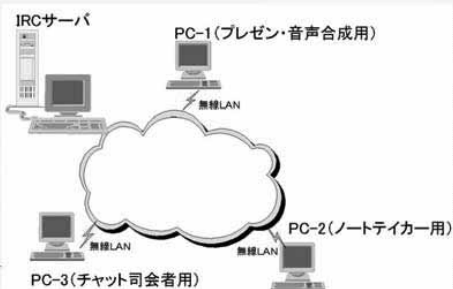
2

ソフトウェア環境

- 音声合成
 - 1) テキスト読み上げソフトウェア (EasySpeech: salo Software Labs.) 一開発終了につき変更必要
 - 2) 日本語音声合成エンジン (VoiceText: ペンタックス)
- チャット (無線 LAN 使用)
 - 3) IRC サーバ (ircd 2.10.3+jp6: Linux で運用)
 - 4) IRC クライアント (Chococha: 富士通)

3

ハードウェア環境



システム運用

- 本人が発表する場合
 - PC1でプレゼンを表示し、発声 (オートパイロット)
- 本人が他人の発表を聞く場合
 - PC2でノートテイクが書き、本人が横で見る
- 本人が質問する場合
 - 本人がPC2で書き、
 - チャット司会者がPC3で読んで、発声
- 本人が質問を受ける場合
 - チャット司会者がPC3で会場からの質問を書き込み
 - 本人がPC2で書いて回答

5

達成感を感じ満足する結果

- 汎用的なソフトウェア (音声合成やチャットサーバとクライアント) だけを用いて運用を行い、聴覚障害学生が達成感を感じほぼ満足する結果を得ることができた。

6

問い合わせ先

遠藤教昭 (岩手大学 人文社会科学部 人間科学課程)、小笠原朋美 (岩手大学 学務部学務課)

URL : <http://www.hss.iwate-u.ac.jp/endo/index-j.html>

PR・啓発グッズ部門 応募団体紹介

京都精華大学 障がい学生支援室

◇理解啓発冊子（マンガ）
「JURI」

◇ノートテイク説明冊子

◇障がい学生支援室
パンフレット

<問い合わせ先>障がい学生支援室
chall@kyoto-seika.ac.jp

同志社大学 学生支援センター 障がい学生支援室

◇障がい学生支援制度
パンフレット・ガイドブック

◇スタッフジャンパー

◇ネックストラップ

<問い合わせ先>障がい学生支援室
jt-care@mail.doshisha.ac.jp

宮城教育大学 しょうがい学生支援室

◇教職員の手引き

◇支援学生の手引き

等

<問い合わせ先>
しょうがい学生支援室
a-maehara@staff.miyakyo-u.ac.jp

東北福祉大学 障がい学生サポートチーム テイク☆テイク

◇聴覚障がい学生サポート
ノートテイクの手引き

◇サポーター募集チラシ

◇利用学生紹介写真

<問い合わせ先>障がい学生支援室
support@tfu-mail.tfu.ac.jp

フェリス女学院大学 バリアフリー推進室

◇学生スタッフ募集ポスター

◇情報保障 Guide Book

◇バリアフリー・マップ

◇バリアフリー・ポロシャツ

<問い合わせ先>
バリアフリー推進室
nikaidou_yuko@ferris.ac.jp



第 6 回日本聴覚障害学生高等教育支援シンポジウム

発行日：2010 年 11 月 14 日

発 行：第 6 回日本聴覚障害学生高等教育支援シンポジウム実行委員会

日本聴覚障害学生高等教育支援ネットワーク（PEPNet-Japan）事務局
〒305-8520 茨城県つくば市天久保 4-3-15
筑波技術大学障害者高等教育研究支援センター

※本事業は、文部科学省特別教育研究経費による
拠点形成プロジェクト（筑波技術大学）の活動の一部です。

